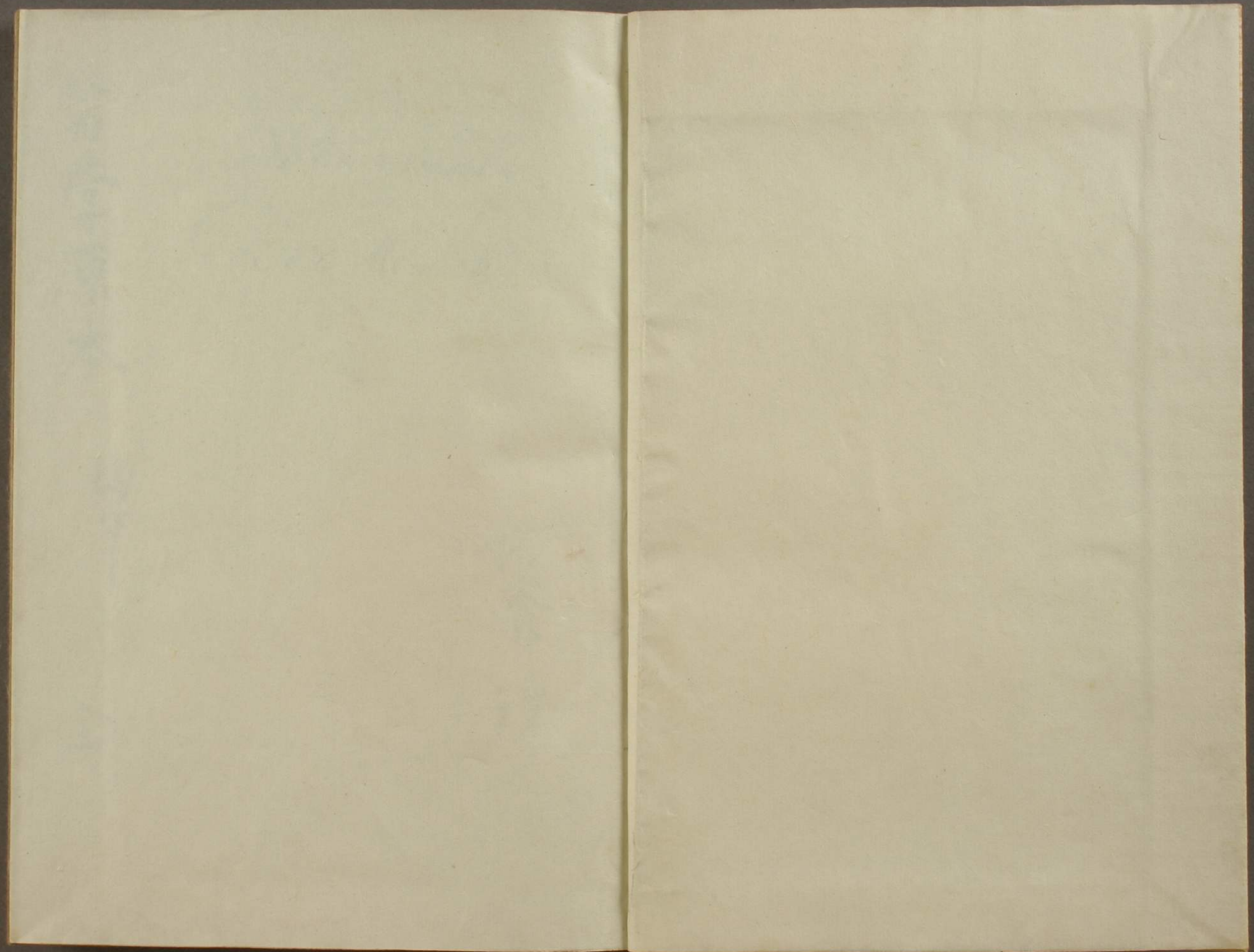


榕菴譯人身六窮理書

洋学文庫
文庫 8
B 46





醫學字原本

稿本

全

Naturkunde
van
Den Mensch.

培萃譯

1018-12

西。利撰荷蘭度人身究理書

・ 十八百二十六年 ア、シ エルペキム

和蘭澤

○[インレイヂク]

宇田川格

澤林

元素ノ数九五十一

〔第一〕 *gasphur* *grommetagen* (*gasphur*)

珪土

勃陋母

炭素

水素

殺素

酸素

硫黄

古羅里母

弗律阿里捏

ヨヂウ

テルリウム

燐

砒

以上三名

〔第二〕 *Klein's* *Werk* *grommetagen* (*lead*)

安質

錫 亜鉛

ヒスニト

頑

銀

鉛

曹達

加里

後陋母

ストロニチウム

加第基土

苦土

イトリウム

グリニウム

岩土　ジルコニ土、以上十七名

〔第三〕 *get leude grondstoffen* (*Chromiolyt*)

セリウム　満俺　ウランウム　コバルト　鉄　ニケル

銅　　パルチウム　　白金　　黄銅　　イリヂウム

ロリウム　オスミウム　　チタニウム　　エニグステーン　　コロニウム

水鉛　　コリムビウム　　以上十八名

「*ニトロン*」*シリゲム*」

燐素　　老素　　エシキテリケ素　　マグネチケ素

○人身ノ温度ハ列氏三十度、三十二度ニ至ル（華氏九十六度ナリ）

○津唾「ヘルゼリウム」曰水九九二、九分一（^{温情分}種ノ動物素ニ九分

ス、一、四分、塩酸加里及ソー曹達一、七分ナリ

○胃ノ温度ハ華氏九十六度

○胃液ハアルカリ「ナフ」酸ナク、董花ヲ変セス

○糞臭ハ特ニ硫性水素瓦斯ノ發スルナリ、銀ヲ糞臭ニ中六厘

色ニ変スルモ亦此瓦斯ノ能ナリ、○胃腸ニル食物ヨリハ種々ノ瓦斯

ヲ發ス「ユリ子」「ハンゲ子左」（^ハマシトケニニテ死シ各屍ヲ數時

ノ後割テ其瓦斯類ヲ集メタルニ胃ヨリ腸ニ至ルマテ酸素炭素

漸ク減シ殺素漸ク増ス、水素ハ厚腸ニ多ク薄腸ニ少シ

○靜脈ヨリ心ニ還ル血、暗色ニシテ重ク其温度列氏ノ三十度（^{華氏}九十六度ナリ）

ヤ、輕ク列氏ノ三十二度ナリ

遺氣

gan-lu-jac 尚
き冷し水
ヲ金トセシ

万物の面ヲ商ク壓ス人身中等ノ肥者ノ面ハ十五尺十六尺方和蘭シナリ 薄気
コレヲ壓スノ力 *Robert on party's pulkand powder* ナリ ○薄気
ノ壓力大ニ人身ノ感ス海面ヲ距ル一三寸尺 ラニスノ高山ニ登ルハ呼吸
ヤ、艱難シ肺軟、疲弱以テ酸素ノ減少ト壓力ノ不及ニヨルカウニシ
○氣人身ヲ壓ス一手等ナルヲ以テ害無シ若シタ、一部ノ氣虛スハ其氣
腫レ血液滲漏シ皮膚瘡張テ甚シクハワレル吸角ヲ貽スヲ以テ知ベシ
○大氣十キ中ハアルキル「アト」モ列氏ノ三十度ヲ以テ瓦斯トナレシ
○大氣ヨク水ト和スル「塩」水ニ和スルカ如シ大氣全温トハ金ヨク水ニ和
水全温トハ「塩」金多ク候解スルガ如シ
○薄気ハ「ヒュムホルト」及「カイ」リニツサク「ノ」ニ酸素二十一分
殺素七十九分「百」分ノ一二ノ炭酸アリ ○アルペン山名ノ大氣ト「ロム

Centimeters Lombardie

「ロム」ノ泥沼ノ上ノ大氣ト「ノ」ニ酸素ノ多サハ共ニ同様
ナリ然レモアルペンノ人ハ多ク病メ「ロム」ノ人ハ「エヒ」トセ病、
萎矣、病等ヲ患フコレ酸素同量ニアルモ動物植物ノ腐敗ヲ含ムヲ
以テ故ナリ ○薄気ヲ百トシテ酸素二十分アルハ呼吸自在ナリ
○人及哺乳ノ動物ハ酸素僅ニ五六分ヲ含ム氣中ニ在テ死スコトイフニ蔓行
ノ虫ハ然ラズコトイフニ如キモ「ヒュムホルト」ノ血ヲ肺ニ進退スル者コトイフニ
ガ故ナリ
○大人ハ一吸ニ三十寸方ノ薄気ヲ肺ニ受ク老女等ヨリナリ
ケルハ水ヲ肺ニ吹入テ肺ノ細胞ヲ見タリ其後人一種ノ鏡ケ易キ金
屑ヲ製シコレヲ肺ニ鑄タリ「其法」錫八分 鉛五分 ヒスニテト三
分 頑一分 右鏡化ス

「ヒュムホルト」ノ呼吸ノ中等等ハ四寸令七七「ヒュムホルト」
ニ十三寸「ヒュムホルト」ニ「ヒュムホルト」ニ六寸七二「ヒュムホルト」ニ
「ヒュムホルト」ニ「ヒュムホルト」ニ「ヒュムホルト」ニ「ヒュムホルト」ニ

○動脈ノ血ノ濁乙ハ静脈ノ血ノ濁乙ヨリ輕シクヒル云静脈ノ血ノ濁

乙一令二六四 動脈ノ血ノ濁一令二五七ナリ

○^(蒙氣中)酸素瓦斯 動脈ノ血中ニ在テ身体各部ニ循環シ性命ヲ保テ温
煖ヲ生ス

○水ヲ玻璃氣ニ充其内ニ魚ヲ入レ其口ヲ禁封スル魚窒死ス又魚ヲ納瓦

蓋ヲ排氣鍾下ニ置モ同レ或ハ炭酸其他呼吸ニ害凡瓦斯ヲ飽シタル

水ニ魚ヲ養フモ亦其魚死ス ○フリーストレイ 及スバルラニサニモ亦水

中ニ氣アリコノ氣魚呼吸ヲ利スト云フ(注)水中ニ在テ魚ノ呼吸ヲ利ス

ル氣ハ濕氣ニアラズ 濕氣ニ比スルヤ、酸素ヤ、多キ氣ナリ ○雨中ニ含

氣ノ如シ雨中ノ氣ハ フリーストレイ 及ハッセンフラツクニ等ニ酸素瓦斯

四十分アリ ヒュムホルト 及カイ リツサクノ等ニ三十一分アリト云フ

○セイ子河ノ河水中ニ在ル氣ハ酸素 三十一分九ニテ含ム

○動物自然ノ温度

人身自然ノ温度、列氏ノ三十三或三十二度ナリ

(注) * 人身自温ハ沸湯ヲ八十度トシタル器ヲ以テ二十九度半ヨリ温ナラス

ニテハ「メル」及「ケル」ト用ヒタル驗益ヲ以テ八十五度ナリ「百度」ノ

名凡モ「トル」即チ列氏ノ名凡モ「ハ」沸湯ヲ百度トシ「華氏」ノ驗益「培花

利典」和蘭獨乙蘭土ニテ常用ス二百十二度ヲ沸湯トス ○人ノ温氣

ニ於テハ 百度驗益ノ三十六度又八分度ニ 即華氏ノ九十八度ニ昇

○ア、ホニヒニホルト云濕氣ノ温度ハ同様ノ度(「メル」ト「ケル」ト下ニ

在テハ皆同様ナリ) 爾テ子ワ河濱、セイ子ガ河濱、オレノ河濱、カシ

ゲス河濱ノ蔭暗ノ処ニテ測ルニ列氏ノ三十二度ナリ此レ其近傍ニ

皆(カシ余)

返照スル物及ヒ植物アルニ因テ皆其度ヲ差フナリ (注終)

北極ノ近キ人モ熱地ノ人モ皆同様ナリ又モ盛暑モ同シ

○ロニクオイトワセニシク

動脈血ト静脈血ノ最著キ差別ハ、静脈ノ血ニ湯乙多キヨリ他ナシ

此物乙ハコシ肺中ニテ蛋清分及膠ニ吸氣ノ酸素ヲ受ケテ固結ス

○肺呼吸モ其多サ皮膚ノ多ク散氣ト同ク十二時間ニ四此ヲ蒸發ス

○氣絶

酸素瓦斯ヲ肺ニ入ルヲ法トス一角ノ氣管ヲ造リ鼻ノ兩孔ニ中

テカガテ肺ニ入ラシム此病ノ摩擦、穿喉法(フロコトシ)ヲ用ニテ

烟銃、空薬、噴散、樟腦鹽ヲ服セシムル法、灸、刺灸、洗傷、且シキ

トル、カルハニエニエス、
及ヒ

ガスワルテ

硫性水素瓦斯、フラーウマノセド瓦斯等ノ如キ呼吸ヲ絶スル瓦斯ノ

内ニ在テ死ス

炭酸瓦斯ニ中テ死シタルハ肺管ノ血凝結セズ四支ノ運動固結セズ身体

自然ノ温暖散セズニ散セザルニ死後一二寸ハ常ヨリモ肌塊又

ルアリ心ノ右室及静脈ニ黒血アリ但シ流動セリ

硫性水素瓦斯、或煖性水素瓦斯ニテ死シタルハ肺ニ寒境ニ在リ

黒斑ヲ生シ

○諸液

ホウルゴロイノ身諸液ヲ六加刺標ニ區別ス

○一 鹽類ヲ溶解シ含ム液 尿、汗、
如シ之ヲ鹽様液(サリ)

テスト名ク

リテス

○二 油様液〔ヒツウキス〕一種ノ粘度、及凝結スヘキ度ヲ保ツ脂肪。 肝臓、等ナリ

○三 錫布様〔サホニ子ウセス〕膽液、俵、

○四 粘濁液〔ミエウセス〕腸ノ裏面ヲ陽性ニスル液

○五 蛋清様〔アルビユ子ウセス〕血ノ湯乙

○六 纖維様〔ヒフリ子ウセス〕血。

○血

〔其徑リ〕 正左ナルトホメ云人ノ血球ノ箇ハニルリメートルノ二百分ノ一 即 該厄利亞 一寸ノ五分分ノ一ナリ或ヤ、大左者アリ同人云血球ハ其徑リニルリ 一メートルノ百八十分ノ一ナリ (魚各)ノ血球ハ其徑リ百七十分ノ一 ナリ。或云血球ハ中央ニ孔有テ環ノ如シト或云外面肉様ノ皮アリ内ハ、ウツシ

紅色ノ核アリコロハ映メ全球ヲミテ紅色ニスト或ハ云血球ノ紅色ハ内ニ達セスタ、其外面ニミエアリト云

〔血湯乙〕ハ水。 正虫清分。 曹達。 毒吸曹達。 鹽酸曹達。

消酸加里。 オトアス 鹽酸加ル基。 ナリ ○曹達ヲ含フ以テ

尚乙ニ植物ノ碧けヲ和スル緑色ニ変スルアリカリハ、毒ヲ稀釋シ

流動セシメ酸、アルキホル、酸ハ湯乙ヲ凝結セシム

〔クリオアル即血ノ紅分〕 紅分ハ二種、正虫清様物ニシテ 凝法ニ易キ、毒清分ナリ己ヲ燒ハ揮發性ヲ蒙シ少許ノ灰ヲ残ス

秤量百分ノ一二過キス ○此灰、ベルセリウス、ノ混ニ從ハ 酸化鐵五十五分。 半并酸加ル基及苦土ヨリ成ル者八分半。 無 酸加ル基十七分半。 炭酸十二分半。 ○酸化鉄ハ血湯乙ノ

炭素分、及纖維質ニ無クテ、紅分中ニ在ルニ

〔纖維分〕左セルストフ〔ヒブリ子〕カイル コウラニテ〔フルイブルフス〕

(鐵分) メニキニ曰 血百分ノ一ヲ成ス或云五百。三分ノ一ヲ成スト」

「ブル」云 血中ノ鐵ハ、燐キタル血ニ在リ或クク乾シタル血ニ在リホウ

ルコト云 血中ノ鐵ハ、燐キタル血ニ在リ或クク乾シタル血ニ在リホウ

○ホテラ」試ニ白兔胞ニ 磷酸加量(「プリユミマスホットアサ」ノ

液ヲ充其液ニ銅鎖 オントケニミテレハカケテ」ヲ通セシメ而シテ胞

ノ外面ニ硫酸鉄液ヲ應ニ充布ヲ覆シ此布ニ鉛鎖 ホニテハ酸

ヲ通スル其色忽チ琥珀色ト成リタリ

○食物
禾植ノ稈、穀、甚々多ク、珪土ヲ含ム試ニ珪土ヲ去タルニ植ルニ其注

タル穀ニ高珪土アリ常ノ如ク、燕麦、特ニ珪土多シ「石ニ在リ」曹ラ

燕麦ノ灰ヲ消酸ニテ分雜シテ消酸珪土、六百。七分。磷酸加ル基三

百九十三分ヲ得タリ ○十日間燕麦文ノニテ養ヒタル雜ノ屎、灰トシ

分雜スル、磷酸加ル基 炭酸加ル基多シ

○尿ノ含炭加性

尿ハ大人^{男子}強人ト見、婦人、弱人ト甚々差別アリ尿中、含炭者、

ヒスストフ(ウルエ)、動物膠、 塩酸曹達、 磷酸曹達

揮發性鹽、 磷酸加ル基、 磷酸苦土、 磷酸、 尿酸、 尿酸、

セニエール、 安息酸、 其他諸素アリ

○ベルセリウス云右外ニ 乳酸、 乳酸揮發鹽(ラクタテ)デ、

モニア左) 珪土、 あり ○尿甚々敗ニ易ニ敗スル醋酸。揮發

又アチムハ
シリンニ似ケ
リフラムフ
ニアシト名
クハ揚指
テカスト
瘡ナリ

皮膚ノ病ハ南方ノ諸國ニ多シ「ゴライツヘイト」〔癩ノ類〕ハ如德亜ヨリ我
佛蘭西ニ来リ「ロドテホイトオイトスマク」ハマルロウケハ「カイエニ子」ヨ
リ来リ「ロアシ」一名「ヤウス」ト各ル皮膚層ノ瘤
梅毒ノ如クシハ 又「聖利加及ゴイ子アニテヒ」
注ニ易シ アリ其形蛇苺ノ如シコハ瓜哇及「ゴイ子ア」ヨリ来リ其
他「エシバンチアニス」ハ「アラビセムラソウヘイト」ハルズルム、疥癬ノ如キ皆
南方ニ多クナリ我ノ國ノ如ク寒暖中知自ニ生レ
〔レイムバ〕ハルズル云甚々血ノ汚乙ニ似タリ膠様ニ鹹味アリ煖氣アルコ
ホル、酸液ヲ以テ凝固スルコトエテ蛋清様ノ質アリ

○植物ト動物トノ差別

動物甚々似タリ特ニ「フランドゲル」ト植物トハ差別甚々之ニ動物ノ
内結構全キハ人ヲ最上トシ「フランドゲル」ヲ最下トス

水ハ動物ノ液中ニ最多シ此内ニ塩類溶解ス又水中ニ在ル者三種
アリ即チ

膠（ケイ）ゲラチ子

蛋清（エイウクト）アルヒニ子

纖維（セルストフ）ヒブリ子

○膠ハ渾く白色ノ動物ペーセル、ペースアチハオイトフイドセルス、ペー大
フリセル、セルセルセルセル、膜、等ニ在リ

○蛋清ハ清液ニ在リ

○纖維ハ血中ニ在リ

○舎炭加ノ統ニ右三種ハ治オニ変化シタル者ナリ最初ハ膠、膠、膠ハ
水素炭素ノ酸化「オキレテ」ヘトロ「カルボ子ウキス」ナリ殺毒無ニ

○紅膜ハ老ヲ受テ感受ニ其感ヲ視神性ニ定ケ視神達ス

○四ニ 光芒三稜ノ玻理ヲ通スルハ七色ヲ生ス所謂七色ハ紅、橙、色、
即厚 黃、綠、碧、紫、堇花色ナリ右七種ノ紅ニ近キ色ホト愈々
推テ難ニ蓋ニ紅色ハ最強キ力ヲ以テ眼ノ洞膜ヲ歴ス故ニ諸
色ノ内最活潑ナリ故ニ野人ト雖モ紅衣ヲ見テ驚ム故ニ庶民殆ト
皆王者ノ服色ヲ愛ス又紅、諸色ノ内最モ鮮活ナルニ因テ勅物或
ハ紅色ヲ視ル眼ニ耐ヘザル者アリ ○予狂人ヲ見ルニ紅衣ヲ着
ルルヲ見テ其躁亂靜止スルアリ ○綠色ハ此三稜ノ最後弱キ色ニ
故ニ見テ眼ヲ勞セズ眼ヲ悦ム故ニ造化モ亦植物ヲ綠色ニシ此ヲ地面
ニ繁ク蔓セシム又光芒ニ耐難キ眼爲人ハ綠色ノ眼鏡ヲ用フ ○堇
花色ハ最終ニアリ綠色ハ最中央ニ位ス然レモ老光芒最推テ易シ堇色ハ
光最弱キ色ナリ此色ヲ重ク眼ニ見ヘズ故ニ画人多クハ之ヲ用ヒズ

○光輝ハ諸光芒ヲ反照シ諸色ヲ消シタハ一白トス

○涙

半ハ粘液半ハ湯乙様液ナリ 餉水ヨリヤ、重ニ曹達、鹽酸曹達、
炭酸曹達、及々許ノ毒酸曹達、加ル基、ヲ含ム

○眼焔衝スルヒドブリースノ刺戟増ノ其刺戟淚腺ニ及ヒ之ニ因テ
淚多ク流シ其淚常ノ淚ヨリハ曹達増ス曹達増スニ因テ疼ヲ覺フ

○香素 (レウクストフ) リーケドベキスル (アロマ)

ホウルコイ云香素ハ微塵ノ物体ヨリ他無シコレカ煖素ニ因テ溶解シ
浮気ニ因テ溶解シコレヲ嗅ク表面ニ覽ルナリコレニ因テ別ニアロマ
ト名ル者凡ニアラス 林娜斯 及口ルリイハ香ノ性ニ從テ香素ヲ分ツ
○林娜香素ヲ七加刺標ニ分ツ

○第一 アマヘルケウレン 龍涎香素 善微、广香之ニ属ス (其質固ク散シ易カラスク作レ)

○第二 シケルベ 辛香 百合、雜腹系。耶疾若 (散スルニ速也)

○第三 ウヰリシキテ 芳香 老利兒、ノ如シ

○第四 アセイニアルズ 葱様 蒜薤ノ如シ

○第五 スチニチニテ 惡臭 薔草、ハツテスアリ

○第六 ギクテ 有毒 罌粟、阿基多

○第七 ワルキテラケテケテ 催惡心 胡瓜、瓜、南瓜、瓜

○ロルリイ五加根(刺)ニ分ツ

○第一 羯布房様

○第二 鹿解

○第三 气孔様、樟皮

○第四 酸様

○第五 石カリ様

○ホウロコイハ

○スロムアタケ、レウダストフ 香無キ植物ト名ル植物ノ香

○油様 (ホイレウキス)

○揮發 (ホラチル)

○酸様 香素

○礫性水素瓦斯様ノ香素

○ブル人、林娜斯、ハルレル所達味品

酸	甘	苦	鹹	アルカリ様
酒様	精様	香様	養	辛

alide Zou
nigie. De lichamen werken alles
in den opgelosten staat.

味ハ皆津唾ノ自他温気ニ溶へキ物体ノ知覺ナリ津唾ニ溶解スル無
キ者ハ皆無味ナリ 舎ニ容加確言ニ云凡物体ハ之、溶解ニ先上ニテ
之ニ感覺スルヤ此後ヨク味ノ理ニ船中ス

舌ニ發生シテ味ノ變スル其物直ニ舌ニアタラセラル故ナリ
○綴質ノ物体ハ温煖ヲ導クノ導者ナリ「金石ノ如キハ手ニ觸
テ冷ヲ覺フ此其實ニ密ナルヲ以テ手ノ温氣ヲ導キ引ク故ナリ又金
石モ磨礫ニタルハ更ニ寒ヲ覺ク此其面ト白ク一體ニ吾手ニ觸ル、故也
少彈丸ヲ兩指ニ挾メハ二丸アルカ如キ兩指ニ冷ヲ覺フ

筋肉 スピルモース

血中ノ纖維ト同シ共ニ殺素多シ ○ベルトルト「筋肉ヨリ一種
ノ動液ヲ得テ自ラ各ケテ動酸「アミテワ」ニ名」トスフ○又

Asanarame.

筋肉ヨリ膠様ノ者夥ク出佛至西ノ舍ニ容加之ヲ「阿斯麻索減」
ヨリ一種ノヂルレイキ オイトテキスル（エキスライト アニマル）ニテ其色
赭色、香竈、甚々滋養ノ性アリ肉ニ美ノ一美味ハ此オスマツ
ノ味一ナリ「オスマツ」ハ動物ノ「ホルト」ニクセルナリト雖モ一二ノ
草菌類モコレヲ含ム 握云「香草」ノ美ニ
入テ美味ヲ有ス是ナリ

○尾尔萃尼

亜鉛板ヲ舌下アテ銀板ヲ舌上ニ置キ其ニ板ノ端ヲ合スルニ其味ト
微衝動ヲ覺フ ○亜鉛竿ト銀竿ヲ左右ノ眼ニアテ其兩ノ端
ヲ合スルニ其光ヲ觀ル ○銀板ヲ口ニ銜ミ錫、銅或他ノ金屬
ヲ肛門ニ挿シ鐵線ヲ以テ口ノ銀ト肛ノ錫等ニ導キ中ニ其能
續カシム

腸ニ達シテ口ヨリ肛マテ著キ衝動ヲ覺ルコトニ因テ輕キ疝痛ヲ受
 ノ輕ク下利ス
 コトニモルトニツテ其表被ヲ去リ其ニ様ノ
 金屬ヲ貼メ其端ヲフニ合スルニ処ニ劇キ衝動ヲ起メ湯乙様ノ
 血ヲ流ス

○アルタ装置一名 カルニセコロム

コトハアルタ氏ノ装置ナリ先初ニ亜鉛板ヲ置キ其上ニ濡ニ充テ固牌
 紙ヲ置キ其上ニ銀板ヲ置ク次才如是
 ○玻璃筒ニ水ヲ充テ其端ヲ木ヲ以テ塞キ其内ニ木ヲ以テ
 金屬線ヲ挿シ其端ヲ木ヲ以テ塞キ其内ニ木ヲ以テ塞キ其内ニ木ヲ以テ塞キ
 方ナリ水中ニ水素瓦斯ヲ集メ其内ニ水素瓦斯ヲ集メ其内ニ水素瓦斯ヲ集メ
 線端ニ水素瓦斯ヲ集メ其内ニ水素瓦斯ヲ集メ其内ニ水素瓦斯ヲ集メ



若シ水中ノ二線端ヲ相觸レシムルニ水素瓦斯モ生ゼズ酸化スルニモ
 ○骨

紅血ノ動物（哺乳獸、人類、鳥、蛇、魚）ハ身内ニ骨アリ肉ニテ
 被フ○白血ノ動物ハ硬殼、或石様ノ部ヲ被リ身内ニ骨無シ
 ○又一種ノ動物アリ内外共ニ硬骨無シ植動ハフニトケシト
 裸虫、蜚類ノ如シ○骨質ハ清動物皆同様ナリ即チ其
 ○膠
 ○鹽酸
 ○加爾基 是也
 ○白血動物ノ骨殼ハ紅血動物ノ骨ニ一般ナリ但シ其殼ノ如キハ
 長ニニ儼テ晚ニテ又新ニ殼ヲ生ス○又鳥類ノ骨ハ他ノ動物ノ
 其造作

此院甚文
新且奇

骨ト同シカズ、凡ク鳥乳ノ大骨ニ六管アリ此管肺ニ連シリ故ニ
骨ノ管中常ニ自化温ヲ含ム氣ヲ充ツ骨中如是ニ氣ヲ充ルヲ以
テ其體輕ク^高九霄ニ翔游スルナリ

○骨ノ加爾基土減スル骨軟ニナリ卒勿意ノ如クナズ或^{不成人}下ガ
枸橀、亀膠ヲ見ナリ

○骨ヲ稀消酸ニ浸セバ其加爾基土漸ク消酸ニ溶テ其骨軟骨
トナリ浸クヤ、又キ中ハ「セル空」セル「セル」ニ変ス

骨涎 リトキト (セロヒ)

錫水ヨリ重シ白色^水「蛋清分」^水。鹽酸曹達、炭酸曹達、磷酸加爾
基^{ナリ}等水ニ溶解セリ此諸物ハ水ノ秤量 四分ノ三ニ居ル ○酸ヲ
加レバ縷ヲ引ク

中等ノ

○人身ノ重ク、百五十北、最肥ノ者四百或六百北

○水衣ノ水 (ラムマト)

水衣ノ水ハ輕臭アリヤ、滑ナリ錫水ヨリ重シ一十ト一十令々四トノ如
シ水分最多ク蛋清分、曹達、鹽酸曹達、磷酸加爾基アリ「ヒニ
マ」及「ハニケリ」後ニ右ノ雜物ハ無キ無百十二分ニ居ルト云リ
○堇花ヲ綠色ニ^取然レ居「ソニ子」^取ム^取ノ浸汁ヲ紅色ニス^取固性、
アルカリ^取及ヒ酸ノ微ヲ兩ラ具ルナリ ○牛ノ水衣水ニハ二種ノ酸アリ
「ヒニハ」及「ハニケリ」之ヲ「アミテ」アムニオチ名 (ヒニル) ハニト (ラムマト)
水衣水^取ト名ク ○水衣水ノ性ハ母ノ食物ニ^因テ^取変ル^取リ^取曾テ娠中ニ^取頃
ノ^取摩^取膏^取ヲ^取塗^取名^取婦人ノ水衣水ニ銅ヲ浸ノ銀色ト為リ先^取ア^取リ

○一婦人産子ノ数

二十四子、三十子、三十九子、五十三子 皆一婦人産る処ナリ
一婦人北豆黒利加ニマリ 500 Roemen en KleinRoemen (geluk),
haar van 208 haer sjen (geluk)

○渾 又作種

渾トハ極テ稀薄者ト雖モ餉水ヨリ重シ ○大氣ニ中ニハ三元素
ナリ血ノ如シ即テ湯乙。カース様分。脂肪分。即チ是ナリ ○ホウル言イ
曰ク大氣ノ酸素瓦斯渾ヲニテ凝ラシケルナリ カース様分ハ蛋清分
ニ多クノ酸素ヲ含ムル者ナリ

乳糖ハ「シケール」ノ創テ達ル者目ナリ「シケール」曰ク乳糖ニ消酸ヲ加
バ修酸ヲ為ス ○乳ハ百數ノ元素ヲ含テ其元素難シ易シ但
殺素多カラサルニ

加里ハハ
処ノ植体
ヨリ受ル
ナリ

乳中ニ多キ者ハ水素。炭素。酸素ナリ又塩ナリ塩乳ノ内殊ニ
多キ者ハ 鹽酸曹達。鹽酸加里。磷酸加里。基。ナリ

○ロウエルレ曰ク血中ニハ 鹽酸加里ヲ含ム無シ乳糜ニハ甚々多シ之
ヲ以テ考ルハ渾ハ血ヨリ来ルニテハ 乳糜ヨリ来ル液ナリ ○磷酸加里
基ハ尿中ニ多キ者ナリト雖モ 乳婦ノ尿ニハ甚々少シコレ尿ニ出ス多ク
渾ニ出テ見ニ飲シム見之ヲ飲テ骨骸ヲ硬クシ他ノ部ヲ凝固スル
事亦加多基ナリト

○産後初日ニ子宮死タテテ残液ヲ利ス初ハ血ノ如ク漸ク口ス様
終ニ白色ノ粘液ヲ下ス其字名ヲ惡露ト云フ

○壽・量

〔百六十五歳ヨリ壽量長キ説ナリ〕

○腐敗

人屍、腐敗スルノ諸件ニ曰ル

○一 列氏十度計ノ暖度、凍点、沸湯点ニテ腐敗無シ

○二 適度ノ湿润、

○三 大気ノ通畅、無気ノ處ト雖モ久クテ腐敗ス

○凡ソ動物ハヤ、腐テ緑色ト為リ青色ヨリ青色ヨリ
褐色ト為ルヨリ揮發鹽瓦斯發シ。○最終ニ炭酸瓦斯ヲ
發シコレカ揮發ニ親和シテ結晶鹽ヲ為ス。又苛性水素瓦斯。
硫性水素瓦斯。ケステキストテ水素瓦斯。ヲ發シ其後ニ
油。鹽。土。殘ルコレガ植物ノ長成ニ甚ク益ス

○エヒキ気

凡ソ一切ノ機性体ハ數多ノ異類素ヲ集合シ成ル故ニ一箇ノ越列
機の見ナリ人身特ニ然リ神經ハ即其導線ナリ。○或種ノ
魚類亦越列機氣ヲ具ル者アリ。是ヲ捕ル捕者ノ手衝動ニ
或ハ甚ニ至テ、遠距ノ部ヲ麻痺セシムルアリ其魚モ其能力ヲ
人ニ傳ヘテ自ラ麻酔スルガ如ク逃去ルヲ無キニ至ル者アリ

Vidua - of trilobog (torpille) 越列機質ノ流動素ヲ

含ム *beetle (gymnotus e lectricus)* 亦然リ

○ *Stekelbuit (tetrodon)*

○ *Janthart (theichine)*

○ *meerwal (silene)*

ノ三魚モ然リタ、前ノ三種ニ比シテ其能力微少ナルニ

人名

○按坤輿外紀云有麻魚狀極廉笨饑餓
時潛于海底魚腹中凡魚返其身即麻木
不能動因而食之倘人以手足近之亦必
麻木

又 西里利加
roch.

創テ其エキ氣一ヲ起スノ部ヲ表ス其説ニ曰 *Sollner* 膜アリ此膜多ク薄片ト細管
ヲ以テ成ル管中一數多ノ膈房アリテ許多ノ神経強直曼セリ
コレヨリ越列機氣ヲ起ス 漢者此ヲ握ニトシテ思ハズ干麻痺ニテ
取落スニアリ ○ *Neurosis* ハ麻痺ノ能更ニ甚シ ○ 馬或驢ノ
如キモ亦能リタ、人ノミナラズ ○ 瓦爾華尼故モ既ニ「シツテルロフ」
内ニ吾カ製シタル益ト同シキ能力アルヲ云セリ

〔増譯〕

「シツテルロフ」(別名)「ストップヒス」シツテルヒス「カラムフヒス」トルヘト

「產地」ポイトウ *Amur*, *galicogne*, ノロコニシ「海ニ産ス

〔形状〕軟骨魚ニシ「ロフ魚」ノ形ニ似多リ眼其甚々小ナリ口上ニ

〔口形状〕扁多潤軟骨魚ナリ十五種アリハ魚血エニケラント、和系ニ多シ

tarbot.

鼻孔アリ ○ 背純白ナリ尾ハ短フメ肉多ク「*ボ*」ノ尾ノ如シ皮ハ
甚々薄フニテ殆ト無鱗 ○ 大丸者モ全身ニ尺ニ盈タズ 指ヲ魚
身ニ中ハ大抵麻痺ヲ覺ヘ其知覺腕肘或ハ肩ニ及ブコトハ、一吋
然ルニテ久ク弄シテ其麻痺消散ス其知覺ハ痛ニ似テ痛トモ異
ナリ ○ 指ヲ直ニ魚身ニ解レサハ近ク魚身ニ接スト雖モ其知覺無
然レモ杖等ヲ以テ魚身ヲ弄スレバ微其知覺アリ又細杖ヲ以テ靜ニ
弄スレバ知覺著ク大杖ヲ以テ強ク弄スレバ知覺却テ微ナリ

〔列西烏穆尔。解剖後〕頭ヨリ尾マテ縦ニワレバ左右ニ大筋アリ其
形「セイスト」ノ如シ頭ヨリ起テ尾ニ終ル「ケル」状ノ管ヲ粗サ管
ノ如シ各ク二十五或三十房ニ分ル每房モ亦「ケル」状ナリ内ニ白色
ノ軟物ヲ充ツ ○ 此ニ筋ノ部ヲ弄レバ知覺最甚ニ

魚身ノ

Syl.

列亞烏膠尔此魚二尾ヲ桶ニ海水ヲ盛テ放テ其桶ニ家鴨一頭ヲ放テ
 綿布ヲ以テ桶ヲ蓋ヒ鴨ノ毛去サルヤウニシ置タルニ數時ノ後其鴨死
 セリコレ其魚ニバク鴨ニ解シタルヲ以テナリ但其二筋ヲ去ルニ
 ○死シ先者ハ澳人モ怖レズ地其魚如クニ食フ然レ其味美ナラス

○マイルナル〔別名〕ニリユリス

海河ニアリ大魚ナリ他魚ヲ食フ味尖テ利害アリ皮韌クメ里ニ
 鱗無シ眼甚々大ナリ背ニ二鰭アリ肛ニ近キ処ニ一鰭アリ鰓及腹
 ニモ鰭アリ○肉硬韌ナリ○此魚「マイル」綱及ヒ「トナウ」入馬尼
 渡ル馬ヲ襲ヒ殺メ食フ「尾常ニ運動ス」雄ハ雌卵ヲ他魚ニ食
 レテテ守護ス五十日如シ

卷之下 利根蘭度

第一綱 第一目 「ブルリクチニゲン」テ オイト名ニ 皮

「ベテレツキニグ」

*But is: Vermittlungem, die nenne fast die walden der
 wiking von a bystande bequell, von de andern
 winking von beideln beziehung must de wunden
 pen, die a balle emringen.*

第七篇 ゲワールウツルゲニケン〔知覺〕

百十五 眼ハコレ視神ノ在ル処人身最高ノ処ニ在リ二箇骨
 室中ニ在リ骨室ヲ各テ「オクコイレ」ト云○眼ニ三質アリ
 其一「眼球」ヲ塞キ光素ノ感解ヲ拒ク等ヲ為ス即チ眉毛

爾微鏡中
鏡ノ名

眼胞、淚道、及眼ヲ助ル諸部此ニ属ス。○眼球又二部ニ分ツ
 其一、殆トト眼球ノ全体ヲ為ス視字家之ヲ視物ノ本然部トス
 オブエクチノフカラスト名ク徑ニ視膜ノ前ニアリ其ニ視神
 經ノ臆様ニ擴張スル者即チ視膜ナリ凡ツ物象ハ先ツ視膜
 ニ感シ^視神經此感筋アリニアニク、ケワルルチニク、ヲ受ケテ
 腦ニ達セシム
 百十六、眉毛、眼胞、淚道、トテラミナオキユリ。此レヲ論ス
 眉毛ノ黒色ナルハ甚大ノ光線ヲ弱クスル為ナリ
 黒色ハ光線ヲ喻収スレバナリ。○人暗黒ノ処ヨリ光明
 ノ処ニ出レハ光ヲ嫌フ態ヲ為メ眉毛ヲ下ニ垂ル^トヲ為ス
 又南方諸国ノ人ハ眉毛濃ク且ツ其色深シ亦此ニ歸ル

眼胞、二片アリ上下ニ在リ其質窩様ニ極テ軟弱ナリ筋^有
 テ連続ス運動自在ナルベキ為ニ胞ニハ硬脂無ク又、膠様
 ノ列應巴アリ故ニ眼胞ハ腫瘍ヲ發シ易シ。○胞質全
 ク不通光ニアラス試ニ閉目ニテ暗処明処ヨク辨別スヘシ
 故ニ昼光ヲ以テ寤覺ノ遠因ニ属ス又不寐ノ患者ハ
 暗室ニ置クヲ良トス

眼胞ノ首用ハ光線ノ間断無ク眼ヲ刺衝スルヲ拒防ス
 胞無キ片ハ光線常ニ眼ニ入テ眼識休息セス試ニ眼胞ヲ
 剪去シバ不寐ヲ發ス。○胞縁ニ裂創アレハ創口ヨリ常ニ
 光線通大氣通^{角終}膜ヲ^刺刺戟メ眼嫩衝ヲ發ス
 外科ノ治法ヲ以テ裂創ヲ愈セハ嫩衝頭ニ治ス。○胞縁ニ

眉毛ノ如キ毛生ス之ヲ睫毛ト云フ小虫其他気中ニ游泳スル
軽^レ飛^ル物ノ目ニ入ルヲ防ク^ルヲ尚ル

涙ハ涙腺ヨリ出此腺脂肪ヲ纏被ス^其涙腺ノ口ハ上胞ノ裏面

ニ七八孔ヲ為ス其孔甚々細小ナリ○涙ハ膠ト^シ湯乙ト各半

ヲ合^シ成ル^ル餉水ニ比スレバヤ^ク重^シ曹達^シ、鹽酸^{ナリ}、炭酸

ナリ及^シ女^性許^ク、毒^酸ナリ及^シ加^ル基^ヲ以^テ成^ル

眼^ノ衝^シテ^ハビ^ニド^フリ^ス、刺^戟増^長スレバ^ハ涙^腺モ^隨テ^其

刺^戟ヲ^受ケ^テ多^ク出^ルシ^テス^ハ淚^性變^ノ曹^達多^クナ^リ

眼^ニ熾^カ如^キ割^切ヲ^覺フ^其痛^ニハ^ハ淚^ニ曹^達多^キニ^ヨル^故

ビ^ニド^フリ^スノ^刺覺^敏捷^{ナル}ニ^目ル^故疑^ヲ存^ス

ビ^ニド^フリ^スハ^皮ノ^重複^{スル}者^{ヨリ}外^ナラ^ズ此^種鱗^魚ク^ベク^細

小ト^為テ^眼胞^ノ最^後面^ヲ被^ヒ其^後眼^ノ前^部ニ^至リ^眼

ノ^諸各^ト眼^胞ト^ヲシ^テ連^續セ^シム○^ビニ^ドフ^リス^ノ全^面

蛋^清様^ノ液^ヲ滲^漏シ^テ淚^ニ和^シ出^ツ

○^此皮^眼球^ト連^續ス^ル処^ノ部^ニハ^貫通^セズ^驚ク^ベク

^至薄^ト為^テ之^ヲビ^ニド^フリ^スハ^コニ^ユク^チト^名ク^玲瓊^角

膜^ノ上^ニ至^リ刺^戟ス^ベカ^ラザ^ル如^ク緊^着ス○^眼ニ^胞無^キ

動物^ニ於^テハ^此皮^厚キ^マ、^ニテ^薄ク^ナ眼^球ヲ^被フ○^ビニ^ド

フリ^ス、不^通光^ナル^上ニ^此等^ノ動^物ハ^眼球^ノ價^入至^ク視^ヘカ

鰻^鱺ノ^一種^一盲^蛇ハ^ミニ^シナ^クミ^リア^ト名^ル者^也

及^ヒフ^リニ^テボ^イク^キノ^左ル^ハカ^スト^ロフ^ラシ^ニス^エオ^エキ^スノ^盲

ナル^ヲ見^テ觀^ヘシ^リベ^ス氏^ガビ^ニド^フリ^スハ^玲瓊^角膜^ノ周^邊

世ニ終ルト云ハ吾信セズ

涙ハ常々眼ヨリ出テ眼胞ノ開閉ヲ滑利シ球面ノ大気ニ中ル
処ヲシテ乾カザラシム○メイボム腺ヨリ脂気有テ油ノ如キ
液ハ「シヤツシイ」出テ瞼ヲ滋潤シ涙ヲ溢流セザラシム猶谷血
ノ息ニ蠟ヲ塗テ水漿ヲ盛レバ水益應ノ面ヨリ高フシテ
溢レザルガ如シ

涙出テ^眼角ノ外部ヨリ内角ニ向テ^眼滞留シ^眼固スルヲ^眼脂^眼云

眼角ノ内方ニ^眼小空處アリ「タラシ」ヘウヘルト名ク
古ハ之ヲ涙ヲ^眼出スル谷ト思ヘリ此モ「メイボム腺」ノ如ク脂様
ノ水ニ溶解スル能ハザル液ヲ出ス此液眼角ノ内方ニ^眼滞留シ
夜眠ノ間ニ^眼乾固メ脂ノ如ク^眼眠覺テ^眼刮摩スレバ乃チ^眼落

百十七「眼球」前ニ云如ク遠鏡中「オブセク」^{ニ此}

「シ」網膜ノ前ニ在リ光線ヲ折テ一束シ之ヲ^眼網膜ニ感セシム

「シ」^眼一箇ノ外部ニ在テ膜ノ如ク硬キ者ヲ球ノ部トス○此膜ノ

内面ヲ暗角膜「スクレロチク」ト名ク又「アト」^{ニシヨ}

「ロイテ」ト名ル者アリ^色黒衣ノ衣膜ナリ^色所謂暗黒膜ノ内面ヲ

張ル之ヲ以テ^色所謂暗室「シヤム」^色「レ」^色「オブスキ」^色ヲ作スナリ○

球ノ前面ニ當テ暗角膜ハ^色凹孔アリ其内ニ^色玲瓏角膜ヲ受

ク○此球ヨリ^色半^色外^色距テ切レバ^色虹彩ヲ見ル^色虹彩ハ暗角膜ノ

前孔ニ属ス而シテ^色膜様ノ^色シケルム^色ヲ作ス^色コ^色眼ノ^色後地ヲカス

而シテ^色凹孔アリ之ヲ^色瞳子^色「ヒビル」ト名ク^色開張スヘク又

収縮スベシ^色蓋^色「虹彩」ノ^色縮張ニ^色随^色「ナリ」

*hina om halde lym aelter den sepende, naar viss
 2 dromt viske gelycke del weg hals met hysse veldt
 hui viske beelen vordindt, met teem sijn den oog
 mond.* リニセニ様ノ小豆ノ体アリ膜様ノ囊中ニアリ硝子様体
 ニ隣ル其居処移動セズ質透明ナリ水晶体又キリストル
 リニセ〔キリストルリン〕ト名ク

水晶体ノ後、全球四分ノ三ノ地ヲ占テ膠様清澄ノ液アリ至薄
 ノ膜中ニ在リ其膜ヲ水膜〔ヒアロイテ〕ト名ケ其液ヲ硝子
 体或玻璃液〔ヒエモルヒトレ〕ト名ク「コルケル」ノ三分ノ二ヲ為ス
 ○眼球ノ前部ヨリ後部ニ向テ其各ノ順序ヲ弄スル則

玲瓏角膜 前室之 水様液 在眼之 虹彩 孔 瞳

後室之水様液 水精体 ハルカント輪〔コルプス〕

アイレ 水膜内ノ硝子液 ○以上眼中ニ在ル処通光ノ路
 分ナリ此ヲ以テ光線ヲ通シ之ヲ撰メ網膜ニ感セシメ其後
 網膜ヲ通スル光ヲハトフリノスノ黒色ニ喩収シ最後
 ニ暗角膜アリ視神経ノ通路ヲ穿ツ

玲瓏角膜ハ角膜ノ前向ノ孔ニ嵌容ノ時辰表室ノ玻璃窓
 厚サ一リニ一ノ三分ニ可リ此後ニ水様液アリ所謂眼室中
 ニ在リ眼室ニアリ前大者ハ大ニ後大者ハ小ナリ

○或解剖家ハ後室アルヲ信セズ後室ヲ実ニ見ント欲サハ
 眼球ヲ凍ラシメテ觀ベシ凍ラヌバ水精体ト葡萄膜ト
 ト間ニ半規形ノ氷アリ即チ後室之水様液ノ凍ル者ナリ

水様液ノ全量ハ五ハナリ前室ニ在ル者ト後室ニ在ル者トハ
其容ニト五ノ如シ後室水様液ハ前室水様液ノ五分ノ
二三居ル○水様液ハ動脈ノ末梢ヨリ逐々ノ滞留スル者
ナリ一度漏泄ノ速ニ故ニ復ス障眼刺後ニ故ニ復スルヲ見
テ觀ヘシ

前室ハ玲瓏角膜ト虹彩間ニ在リ後室ハ水晶体ト蒲桃
膜(即虹彩ノ裏面黑色ヲ布ク処)ノ間ニ在リ○水様液ノ
同類重ハ韶水ヨリ重キハ稀ナリ或云韶水ヨリ輕ト其質
蛋清ニ類シ一二ノ塩ヲ含ム○水精体ハ膜様ノ囊内ニ在リ
扁豆ノ如シ其中央ノ処厚サニリニ一亦蛋清質ナリ(亜爾箇兒
及温熱ニ回テ凝結ス微細ノ動脈アリ)シニシニ各ノミットルヒニト

Zinn

動脈ヨリ生ス此脈ヲ以テ此体ノ成長及復故ニ要用スル成スヲ
輸ルナリ

玻璃様体、鎔化ノ玻璃、如シ水精体ヨリ軟ニ水様液ヨリ硬
人類ノ眼ハ此体甚々多ク此ヲ包ム膜ノ周邊ニ小動脈亦蔓セリ
常水ヨリ重シヤ、蛋清様ヲ塩分アリ

暗角膜ハ織様ノ膜ナリ眼球ヲ運轉スル諸筋ノペーセニ固着
此膜ハ眼ヲ造作スル諸器ヲ統轄ス

○腦ノ第五対神経之ヲ「オウルリス」ノ視枝ト名ク此枝眼ニ行
テ光ヲ感觸スル者アリ

mais raigue nudette), de l'annee, de chrysolite,
l'œil, de no rat sur de Kaep, 及其他ノ獸然リ

○此等ハ視神經。眼筋。へ左ノクセリニ一。無之然レ凡此類実ニ物ヲ視ルアリ

人美ハ五對神經ハ視、嗅、聽、味ノ四職ヲ兼掌ス五對神經ノ

枝眼ニ行テ其虹彩ニ周布シ虹彩ノ知覺、運動ハ網膜ニ

知覺運動ト一連ス」五對神經ノ第一枝耳^{オウカ}ニ通行ノ

其知覺ヲ眉及ヒヒンドフリ^ニ傳与ス第二枝鼻^{オウカ}允^ニニ布蔓^ニ嗅鼻ノ用ヲ為ス」

第三枝ハ下頰枝ト名ク咬筋ニ強テ舌神經ヲ為シケラト

ヤ^トト^ト一名聽神經ノ硬部ト共ニ一^ト枝ヲ受テ之ヲ「スナール

カ^トト^トト^トロムス^トフリ^トス」^ト名ク○故ニ此五對神經ハ視ノ用

ノニニアズ^ト聽ノ用^トニニアズ^ト人ニ於テハ此ヲ兼^ト各箇ノ神經ノ

用ヲ扶助スルナリ視神經無キ動物ニ於テハ此經視神職ヲ司リ^ト鯨^ト於テハ嗅神ノ用ヲ為ス

石^ト二十^ト聽神。管鳴」手ヲ鐘ニアテ、鐘ヲ打バキ^トヒ^トキ

ヲ覺フ此ヒ^トキ手ニ傳ベズメ氣ニ傳ル^ト之ヲ音ト云フ冬月ハ

濛氣寒ニ因テ乾キテ緻密ナリ故ニ物音ノ調高シ

太サ長サ同キニ弦ヲ張リ張力亦齊キ中ハ之ヲ彈シ其音同シ

律家之ヲ「ステムメン」^トウ^トニ^トシ」^ト按^ト所^ト謂^トト^ト謂^トフ^ト其^ト一^ト弦^トヲ^ト半^ト分

短ク^ト彈ス^トハ^ト此^ト弦^トノ^ト調^ト長^ト弦^トヨリ^ト高^トキ^ト一^ト倍^ト律^ト「^ト平^トニ^ト。オク^トタ^トフ^ト

ナリ」○弦ヲ短クセ^トス^ト弦^トノ^ト周^トリ^トヲ^ト半^ト減^トス^トル^トモ^ト亦^ト然^トリ^ト○弦^トノ^ト長^トサ^ト太^トサ

ヲ減セ^トス^トハ^ト張^ト力^トヲ^ト益^トス^トモ^ト亦^ト然^トリ^ト○故ニ弦^ト益^トノ^ト數^トリ^ト音^ト律^ト

凡^トハ^ト弦^トノ^ト張^ト力^ト。長^ト短^ト。粗^ト細^ト。アル^トヨリ^ト外^トナ^トス^ト」

unison.

此ゴロド トーニ(ソシホニタメシタル)ノ區別ハ神機ハ作用ニ属ス
一箇ノ音響ニ數々ノ區別ヲ覺フ尚一箇ノ光ニ辨體ノ玻璃
ニ振ノ七原色ヲ為シ其間ニ數々ノ間色ヲ現スルガ如シ故ニ声
亦久テ七原音トス而シ其間ニ數々ノ甲乙ヲ為ス

音ハ光ノ如ク線アリ之ヲ「^音線」ト云フ老線ヲ集合シ
大光ヲ為スガ如ク音線ヲ集合スルバ大音ヲ為ス老ハ物ニ中テ
返照スルカ如ク音モ物ニ中ニ反轉ス之ヲ「^音線」ト云フ
ト云フ

百二十一「**聴神諸益**」 人類聴神ノ諸益ハ數々ノ益ヨリ集成
ス其第一ハ外部ナリ音線ヲ集合スルヲ司ル耳朶等ナリ耳
朶ニ凸凹ノ處アリ皆音線ヲ進退スルニ宜ヲ得ルナリ天然ニ任

スル耳朶自ラ高ク外ニ返ラス高ク衣服ヲ被フヲ以テ自ラ扁ク
ナリテ外ニ扁張ス自ラ物音ヲ聴クニウツシ野人農夫ハ此等ノ外
害多ク天生ノ耳形ヲ存ス故ニ物音ヲキクニ精シ○耳朶ハ扁
薄ノ軟骨ニ彈力アリ物響ヲ返轉スルヲ司ル薄皮ヲ被リ
脂肪無シ脂肪ハ彈力ニ害アリ

鼓膜ハ薄ク透明ナル膜ナリ聴道ノ底ト鼓腔トノ間ニ張ル
鼓腔ニ四小骨アリ聴骨トシテ鎖連ス

彈力アリ「エウスチキウ」管ヨリ入テ鼓腔ニ入ツ

鼓膜ニ由テ受ケタル響動ハ凹ク卵凹ナル窓ヲ塞ク處ノ膜ニ
傳ヘ其後耳内ノ種々ノ腔間ニ在ル處ノ水ニ傳フ此水ハ聴
神經(第七對神經ノ軟部)ヲ撒潤シ濕ラス

Water of Voigt's
Cotunni

エウスキ
ウス^管
閉塞^{三回}
テ

此水ノ運動神経ニ感觸シテ甲乙音ヲ為ス^{響動ノ遲速ハ}
此水ノ波浪ノ強弱ナリ此水コテニ^ニ液ト名ク

○ワートルレイテルス^ニコテニ^ニト名ル^ニ小管アリ

○咽喉燄衝ニ因テ耳聾ヲ發スルハ^{エウスキウスノ}喇叭ノ時ニ

閉塞スル者^ノコレ^ニ喉道ノ^{スレ}ムフリ^ス燄衝^ノ其燄衝ノ

喇叭内^ノ腹ニ及^フガ故ナリ咽喉燄衝^ノ治ス^ハ難聽乃チ治ス

鼓腔内^ノ氣^ヲ陳^新代^ラザル^ハ其^ノ氣^ヲ彈^カテ^テ鼓腔内^ノ面

ヲ^ニ濕^ス處^ノ粘^液ト^ニ和^合シ^テ○^ニ於^テ鼓腔^ノ氣^ヲ失^テ排^氣鍾

又^ニテ^テ排^氣セル^ルスト^ルル^ノ如^ク為^リ氣^ヲ通^シ難^シ○^ニエウスキウス

々^キウス^ノ管^ハ嚙^ニ鼓腔内^ノ氣^ヲ新^換スル^ノナ^ラス^音線^路

ヲ^ニ為^ス用^{アリ}○^ニ此^ノ管^ノ喉^道ニ^通ス^ルヲ^以テ^テ鼓腔内^ノ氣^ヲ新^換ス

○聽骨ノ脱臼且ツ消失スル者ハ聾ヲ為サズ^ハ音律ノ正ク聽ハ

ザル^{ナリ}致^ス之^レ但^シ之^レ蛋^形窓^ヲ閉^ルステ^テク^ハウ^ケル^ノゴ^ロト^ス

之^ツク^ノ消^失耳腔内^ニ充^ル液^ノ漏^脱シ^テ神經^ノ枝^末

此^ノ液^ノ中^ニ弥^蔓ス^ル窓^ヲ張^閉ル^薄膜^ノ破^裂ハ^聾耳^ヲ

為^ス○^ニ耳^ノ聽^必用^ノ益^ハ此^ノ耳腔内^ノ液^{ナリ}聽^神經^此液^ニ因^テ

軟^柔ノ^質ヲ^保ツ

老人ノ聾スルハ聽^神經^年久^ク感^觸ノ^自ラ^老敗^{スル}ニ^因ル^ハ固^リ然

リ^或ハ^此耳腔液^ノ乾^涸ニ^因ル[○]大^學師^ピ子^ル氏^一千^七百^九十

八^年ノ^大寒^ノ歲^ニラ^サレ^トリ^レ病^院ニ^於テ^凍死^シ老^婦數^人ヲ

剖^觀ス^此老^婦數^年前^{ヨリ}聾^{セリ}耳腔^空ニ^シ物^無シ^然ル^ニ

後^未聾^セガ^リレ^少婦^ノ凍^死ハ^此腔^ニ一^片冰^ヲ見^{タリ}

又聽^神經^軟部^腫痺^及ヒ^腔ノ^此神^經ヲ^オユ^ス部^ハ病^ニ因^リ麻^痺ス^ル目^ニ

百二十三 香素、アロマ、リリーケント、キニル

百二十四 嗅神諸益、鼻孔、^鼻神経ナリ額アセム、セクヘリス

アセム、ウイック、ヘリス、アセム、オズルカリス、アセム、亦嗅益ニ属ス

鼻孔内ニ膜ヲ張ル此膜 ^{スナト} フリス、ト名ク軟ニメ海棉ノ如ク

コシ滲ラ分泌スル者ナリ常ニ粘液滲漏シ数多ノ細管ユエ口ヲ

開ク此膜諸ノアセムト連続ス

鼻孔大ニス、トフリリス、ノ面度大ナルモト香ヲ嗅^{知ル}ク精密ナリ

且其膜ノ軟素、滋潤ナルニ目ル〇狗及ヒ其他嗅ク精密ニ

ハ額アセム、セクヘリス、アセム、ウイス、ヘリス、アセム、オズルカリス

クスアセム、可驚廣シ第一対神経大ナリ

Truppe

精嗅ノ獸、豚ニ若ク者無シ此獸惡臭ノ處ニ常住シ惡臭ノ^糞

生活スト、雖モ尚其嗅神ノ精キ地中ニ埋ル敗朽ノ根ヲ嗅知テ

掘リ出ス或国ニテハ豚ヲ以テ菌^{トリス}レクヲ探索スルニ用フ此ヲ

菌アト思フ知ニ携ヘ行ク地下ノ菌ヲ掘リ出ス

百二十五 或回テ云第一対神経ノ枝末ハタハス、スレム、フリリスニ

嗅^ニ機ヲ与ヘ第五対神経ノ枝末ハタハス、スレム、フリリスニ

通常知覚 ^{按ニ痛痒ノミヲ為ス欵答曰スレム、フリリスハ実ニ}

二箇ノ神経有テ其知覚ヲ異^ス其一ハ霜ト全ク知覚熄^ルハ

ハ^ト其一ハ益ク知覚ヲ進ムストハ人寒、冒^ノス、トフリリス

強ク邪ヲ受レバ鼻ノ通常知覚甚ク敏捷ニシテ香臭ハ絶テ

覺知セガルカ如シ

And Cassand, hignor.

嗅神経ハ諸般ノ「ブ」セムスニマテハ届カズ但シ香臭ヲ全クスルヲ
司ル処ノ諸腔ニ達スルニ予曾テ「タニトカス」ト「癩瘡」患
者ノ「ヒク」ル腔ニ芳香防腐ノ系精ヲ注射セシニ^{其人}「香気
ヲ覺ヘガリシ」○香官^鼻ノ精ヲ充タル小塚ヲ額「ブ」セム「癩瘡
ノ瘡口」ニ置タルニ其人^女モ香ヲ覺ヘガリシ

第一対神経ノ「テ」ル子「ハ」常ニ濛氣ニ中テ乾燥セサルヤ之常ニ
粘液ヲ被ル此粘液^膏ニ神経ノ「テ」ル子「ハ」乾燥ヲ防クニ
テ「不」過烈ノ香臭ヲ「テ」適^宜ニ嗅覺セシム猶烈味ノ食物
津唾ニ調和スルガ如シ

香臭ヲ傳ル者ハ氣ナリ故ニ^鼻「吸」氣ニ「ア」ガリヨリ外ハ香臭ヲ嗅
覺セズ○他ノ神識ノ「ヲ」失ヘバ嗅神經^之「乾」者ノ嗅覺精
^ガ如シ

百二十六「味ヲ論ス」菓類ノ如キハ熟時ノ遲速ヲ以テ味ヲ異ニ
ス「ト」ハ^味「益」如キハ良形一様ニ味ハ同カラサルカ如シ○味モ亦香
如ク美惡ノ兩様ニ差別スベシ但シ甲人ノ美トスル処乙人ノ惡ニ
阿魏ノ如キハ古人其臭味ヲ愛シ飲食ニ調和セシモ今人ハ之
ヲ惡テ食ハサルガ如シ

凡ソ味ヲ覺ル物ハ津唾ノ自然温度ニヨク溶解スル者ナリ
溶解スル能ハサル物ハ皆口ニ入テ味無シ○消食^按益^胃
ノ病ニ回テ舌ニ粘液、白黄苔^アレバ真然ノ味ヲ覺ヘズ

百二十七「覺味ノ諸益」味ヲ覺知スル益ハ舌ヨリ良ナルハ
無シ舌ハ其面皮アリ粘液膜アリ神經^諸細管多シ其
近傍ノ腺ヨリ津唾ヲ^常ニ^滋潤ス

粘胞及神経舌皮上ニ弥蔓シ細薄キ表被上ニ隆起ス而ノ
乳頭ヲ為ス乳頭ノ形三様アリ一ヲ有莖(ホニケウセス)ニヲ
ケルホルミフ(コニケス)三ヲ糸様(ヒルレウセス)ト云フ○其
第一種ノ外ニ小瘤起アリ神経ノ端(チリ)血脉ノ細質ヲ包ム
味ヲ覺知スル処ハ舌ノ上唇、唇、齒齦、軟硬上顎ノ膜ナリ

硬上顎膜ハ「ゲヘルムテ膜ノ前面」(スカルパ氏)所發
明セリニ「ミテ」子ウス エニ「ト」ゲ「ル」テニ終ル糙液ノ
部ナリ上ス子イタニ「テ」ノ後ニ在リ舌頭ヲ以テ探リ知

ベシ

動物ノ味覺ノ精キ者多シ此ハ舌神經大ニ舌皮
薄ク潤多ク織質柔軟、曲伸シ易ク舌面潤キニ因リ、

蛙蟻、サマニ「テ」ル、蜥蜴ハ舌カ「ケ」ニ着テ運轉不自在

ニ味神(領)リ○人ハ諸動物内味覺最精ニ獸ハ舌ニ毛

刺アリテ人ニ比スバ諸味、毒、不良ノ食物ヲ知ル

百二十八(或)云第五对神經(枝末)獨リ覺味ノ職ヲ司ル軟第

九对神經モ亦全ク舌質ニ弥蔓スル者ナレバ此モ亦覺味ノ用ヲ
為軟第ハ对神經モ古ト喉孔ニ岐ス此モ味ヲ覺フ軟(舌)白

尾列奴氏以降解剖家多シ皆曰ク第ハ对第九对、ニ神經ハ

舌ニ岐行ノベシクセ「ニ」ヲ為シ第五对神經ハ「ケ」ルセ「ニ」

ヲ為スト○又(第九对)舌下神經在者アリ岐メ舌ノ神經頭ニ行ク

此神經ハ古神經ヨリ大ニ其弥蔓スル処第五对神經ヨリ廣

○ヘ「ル」マニ氏曰「腺」ノ硬結腫ヲ瘰ノ誤テ第九对神經ノ一

枝ヲ切斷セリ此ニ因テ其人味ヲ覺ヘズセリコレ信用シ難シ
 ○ヒュルボルトト^ル尾尔萃尼機ヲ以テ舌神ヲ試^ル其^其説^{アリ}
 死^ス僅ニ數密扭多^前狗未^死々ヤ、温氣^ル者、腦蓋ヲ誰シ
 其^其第五对神經ノ幹下ニ亜鉛板ヲ置キ其^其舌筋ニ銀板
 ヲ當タルニ僅ニ輕キ振動ヲ見タリ○額^其及顙^板顙ノ筋ニ
 縮ヲ現セリ此ニ因テ第五对神經ノ舌ニ行ル枝未ハ殆^ト
 々^ト覺味ヲ司ル^ルニ十九^トヲ觀ベシコレ費西河^ニ義家ノ
 論説ニ符合ス且^ト解剖家ノ説ニ第五对神經ノ末梢ハ舌、
 乳頭ニ終ル^ト最多ク舌筋ニ岐スル^トハ最少シト云^ニ符合ス
 舌ヲ製作スル諸器ヲ奉^ル筋九^ツ四名即チ *De stylo-*

觸覺

hyoid, *genio-lingual*, *or a middlelet* *flexor lingualis*
am (m. *lingual*), 神經九三名即チ *nerf. lingualis*,
nerf. pharyngopyriformis, *nerf. hypoglossus*. 動脈
 靜脈 *De arteria on vena ramina*] 水脈ノ支末是
 ナリ此諸体ヲ綜錯メ舌体ヲ為ス舌ノ体タル肉様ニ織質甚々
 緻密折破シ易カラズ甚々心藏ノ室ノ質ニ類ス
 百二十九「ゲフル」
 百三十「總衣被」人ノ表被ハ觸覺ヲ受ル原ナリ其質窠
 様ニ織成シ無數ノ玄孔アリ神經^ヲ穿^ス○表被ハ片々鱗
 次スル^ル家モ屋瓦ノ如シ^ル魚^ノ蛇^ノ類ニ於テ明ニ見ル^ル此ニ無
 量ノ蒸散孔アリ膠、蛋様、アリ^ル羣酸加^ル其^其多^シ

百三十一「爪甲」ハ表被ノ一分ヨリ外ニシテ觸覺無シ

百三十二「毛髮」及ストツルハ「毛髮」ハ表被ニ生スルヲ以

テ表被ノ次ニ速ス觸覺ノ用ヲ為スニアラス却テ觸覺ヲ鈍

ニス○動物ノ内ノ人類最モ無毛ノ裸皮多シ婦人ハ陰毛

女ク男子ハ陰毛多シ婦人ハ頭髪長ク且多シ男子ハ短ク

且女シ

毛亦色ニ從テ同シカラズ

髮色ハ人類ノ属ヲ分ズシ其粗サハウイトホフ氏ノ毛髮論ニ

云一寸立方ノ内、黒髮ハ五百七十二ヲ容ルベク楮髮ハ六

百。ハヲ容ベク黄髮ハ七百九十ヲ容ベシ「髮ノ徑リハ

三百分寸ノ一ヨリ七百分寸ノ一ニ至ル黄髮モ色リ薄キハ

コレヨリモ細シ○黒髮ノ人ハ膽液性テ大ナリ○髮ハ筒ニテ

一種ノ臍ヲ充ツ

百三十三「髮」ハ濛氣ノ乾濕ヲ以テ縮伸ス氣濕レハ髮体

馳ニテ長伸シ氣乾ケハ短縮ス故ニ髮ヲ以テ好乾濕益

ヲ造ルベシ○髮ヲ燥ケハ臭烟、諸模尼亞様ノ油出其殘灰

ニ葦酸加尔基多シ哺乳獸ノ角、鳥羽ニ同シ○アルカリハ

髮ヲ軟ニス鬚髮ヲ剃スルニ先ク錫布ヲ塗レハ痛ミナシ

コレガ為ノ也

人情慾ヲ知ルニ方テ後来毛無キ処ニ生髮スコレ身中有余

葦酸加尔基ヲ排泄スルナリ獸毛獸尿ハ人ノ毛尿ヨリモ

葦酸加尔基女シ

百三十六「神經」

百三十七 神経ハ微細ノ纖維ヲ以テ成ル其纖維兩端アリ
一端ハ腦ニ着キ一端ハ神經ヲ為ス部ニ着ク其纖維
膜管中ニ包在ス其膜管ハ薄脳膜ヨリ生ス

百三十八 神経四宗類アリ其一ハ二根アリ。脊髄神経。
オンドル^{二根アリ}アケテルホフトスセ^{セリニク}ニエ^ク。第五対神経

ノ如ク其一根ハ適意ノ運動ヲ司リ其一根ハゲア^{セリニク}リフ
ヘイド^{セリニク}ノ導者ヲ為ス。○其二ハ一根アリ第一対、第二対
第三対、第四対、第五対、第六対、第七対ノ軟部〔即チ
聴神経〕第九対〔即チ大舌下神経〕ノ如ク其内第一対
ハ嗅神ヲ司リ第二対ハ視神ヲ司リ第七対ハ聴神ヲ司
ルニ七^{セリニク}凡^{セリニク}第三。第四。第六。第九対ハ眼舌^{セリニク}諸筋ヲ運

動ノミヲ司ル。○其三ハ音言語ヲ司ル神経ナリ第七対

神経ノ硬部〔即チゲラトセ^{セリニク}ニエ^ク〕ヲ属ス第八対〔即チ

胃及肺ノ神経。 *globo pharyngealis, de aëriæ in*
willisii, middlebruid Remak, nitwandige dacht-

Remak 凡^{セリニク}呼吸ノ作用ヲ司ル神経此ニ属ス。○其四ハ脊髄ノ

神経ト結合シテ血ノ運行ニ係ル神経即チ *groote mede-*
lyfende Remak

百三十九 脊髄ハ腦髓ニ関係セズ腦無キ動物ニ於テ
見ルヘシ腦ト脊髄ト大サ同カラストハ牛馬羊ノ如キ人
ニ比スバ腦小テ脊髄大ナリ
トイマスハルトリニエス曰ク腦ハゲワ^{セリニク}ルウ^{セリニク}ル^{セリニク}ク^{セリニク}ノ益ナリ脊

髓ハベ左ノキニクハ器タリ

或曰曰左ルヘルスコロムハ瓦尔萃尼根柱ニ比スベク脊髓ハ尊者ノ如ク其兩極ハ腦ト陰具ナラズヤ 答曰然リ腦ト陰具実ニ反對ヲ為ス

百四十五] *Retardation of the Spinal Cord* [失氣ハ心蔵ノ作用

頭腦ニ感スルニ目ル血充滿ニテ心蔵ニ會スレバ失氣之又刺絡度ニ過ルバ失氣ス同一理ナリ又小腹ノ水ヲ一時ニ泄セバ失氣スコレハ已前水ニ目テ脉絡ヲ壓シ血液ヨク腦ニ上リシテ水脱ノ脉ヲ壓シ力一時ニ脱ノ腦空虛スルニ目ル

百五十] 神經、頭腦ノ作用] 神經ハ一箇精微不可

視不可觸、流動ノ氣類ニ目テ活用ス古人之ヲ名テ「キ

ルイキゲクステニト云此氣ハ其性質詳シク其作用上

ニテ知ヘキニ人カラ以テ考フベカラサルニ目テ其精微知ベシ

濛氣ニ諸般ノ氣類アリ越列機氣ノ如シ或疑フ此氣類ノ

濛氣ト共ニ肺ニ入テ動脈ノ血ニ和セズバ其血ト伴テ頭腦

或ハ他ノ諸蔵中ニ入ル欵或疑フ温素、酸素モ亦濛氣ノ

一分ナリ此モ右ノ氣ニ和シ性質ヲ変シ生機ノ基本ヲ為ス欵

○瓦尔萃尼斯ハ熱氣ニ齊キニ目テホルタ氏之ニ目テ生理

ヲ論ス政暹巴ノ理科愈益其説ヲ奉信ス

瓦尔萃氏ハ此益ヲ發明ノ費西阿羅義ノ學ニ益セント欲ス

其説行シス舎家加却テ大益ヲ得タリ詳ニ達喜帝那

尔度、芥律薩加ノ著書ニ出ツ

百五十七]人身理学ノ書ハ古書ハ巴刺多。亞利思多書
新書ハ van Bacco, hobbel, leviartel, leibnitz,
mallebranche, Locke, ambilcar, fermest,
smith, weid, rugald - stewart, labanis,
faul, lammergweize. ノ著書ナリ

百五十八]寤寐」タトハ心ノ鼓動ノ如キハ晩回ハ朝リ頗ル
疾數ナリ不寐スレバ哥尔都ヲ生ス又有熱ノ諸病ハ晩回
ニ盛ニナリ」腐敗熱ノ脱カスルハ朝ニ於テ之脱力ノ徴ヲ為ス
発疹ハ寐中ニ發ス」寐眠ハ壞疽ノ腐蝕ヲ増進ス
寐中ハ寤覺ノ自ニ比スルハ消食。喟収。養滋。運血。呼吸
分難。盛ニナリ。○寐眠中ハ脉動ニクサシク。弱。呼吸

疾速ナラス。發熱氣著シカラス。尿及ヒ血中ヨリ分出スル諸
液ノ分難少シ此ニ反ノ喟収撰ハ甚々盛ナリ故ニ眠回ニ惡
氣ヲ受ルノ恐レアリ

寢時ノ長ハ晝ノ四分一ヨリ三分二至ル三時ヨリ短ク夕ノ稀
ナリ四時ヨリ永ク夕ノ稀ナリ。○小兒ハ大人ヨリ永ク寢又
初生ハ特ニ然リ老人ハ此ニ反メ寢ルハ短ク且ツ寤メ易シ」
肉食ノ動物ハ寢ルハ草食ノ動物ヨリ永シコレ其寤覺ノ自ニ
身体ヲ運動スルノ多キニ目ル」

寢眠ノ近目諸説アリ或ハ後腦ノ衰弱ニ目ル。○哥尔多
精ノ飲ヲ少許用シハ不寐ヲ發スコシ血ノ運動ヲ増シ血
著ク腦ニ潮流スレハナリ。○此ニ反メ血ヲ他部ニ輸リ減スル諸

法、刺絡、脚湯、下剉、吹角法、醉等ハ能ク眠ヲ催進ス
○覺、由テ起ル所以、者、光明ノ眼ニ入リ、聲響ノ耳ニ入リ、尿
屎其他諸液、各貯処ニ充溢シ、其刺戟ヲ腦ニ感テ覺醒ス
百五十九】夢、及夜行
夜行ハ甚ニ至テハ興テ衣服ヲ更メ、戸ヲ開キ、戸ヲ閉庭ヲ歩
行シ、或ハ水ヲ井ヨリ扱ミ、始テ覺醒スル者アリ
狗、馬ハ獸ヨリ夢多シ

第八篇 べ名一ギニク

百六十】此篇意ニ髓テ運動スル諸筋ノ力ヲ載論ス、身
体ヲ此ヨリ彼ニ步行スル等ナリ】内部不髓意ノ機性運ハ

別ニ論ス

運動ヲ司ル諸器ニ、左ルケニテ【アクチフス】、右ニテ【パツレフス】
ノ二大別アリ、諸筋ノ如キハ所謂、左ルケニテナリ、骨ノ如キハ、
右ニテニ属ス

筋ハ三様ノ纖維ヲ以テ成ル、其粗細差等アリ、レノ左ニテ【ク】曰、
其オールス、プロンケ、レイキ纖維、即チ第一等纖維ハ、一粒粒ノ
百千カノニ過キズ、○レカット云、其質神経ナリ、○ヒノウセニ
ス、ウツリス、云、動脈ノ末梢ナリ

百六十二】筋、纖維ノ牽縮ノ象ハ、筋肉中ニ在ル処ノ水
素、炭素、窒素其他火可燒質料ト、動脈血中ニ在ル処
ノ酸素ト和合スルニ因ルナリ

イセド
イセド

動脈ノ血筋肉ヲ潤シ而シ其酸素酸化ヲ受ル物体ト智
 スルニシテ尚又筋ノ質ニ流通スル処ノ神経ストロムモ其
 和合ヲ扶猶酸水ニ尾斯、和合ニ越火ヲ発メ水ヲ生スル
 ガ如シコレ「ギルタン子ル氏」考按ナリ此ニ目テ筋ノ腫起短縮
 硬結モ筋ノ元素ト動脈ノ血ノ酸素トノ反性力ニ歸ス
 凡ノ筋肉ハ運動愈多キ処ハ愈硬ク愈強勒其色愈赤
 シ野獸ノ肉ト家畜ノ肉ト *page 200*、鳥ノ肉ト高飛
 ノ鳥ノ肉トヲ見テ知ベシ甲ハ肉白ク軟ニ乙ハ剛ク纖維勒ク
 炭素多ク臭強シ○此ニ就テハ呼吸最關係ス動脈ノ
 血ノ酸素ハ呼吸ヨリ受ク動物運動強キ者ハ多ク呼吸
 ス故ニ其血酸素ヲ受ルイ多ク筋肉縮率強シ肉硬勒^{自ラ}

相模人ノ如キハ胸肺寛大、声音大ナリ

フレホスト」及「テュマス」各一千八百二十三年ノ新説ニ曰「毎条ノ
 筋纖維ハ神経ノストロム」ニ應シ一率一後ノ殆モ鋸動ノ如シ
 筋ハ兩様ノ越列接ストロム」アリ神経ハ此ガ導者ナリ「フレ
 ホスト」及「テュマス」筋ヲ薄片トシ透明スルヲ度トシ顯微鏡
 ニ觀テ此ヲ知ルト云

百六十七「筋肉ノ性質」舎密曰大抵血中ノ纖維ノ如シ但
 舎密加云「ペース」及「ペース膜」ハ久ク者レハ倍テ膠ト為リ筋
 肉ハ久者スレバ乾固スコレ其窠様質脂肪、蛋清質ノ
 倍ク盡テ纖維ニ殘ルヲ以テナリコレ其「ペース」ト筋トノ
 差別ナリ

血ノ纖維ハ室素多ク高度ニ動機ヲ得、極テ腐敗シ易シ
 百六十八「瓦尔萃尼斯修斯」ボロク子ノ大学校ニ大学師
 瓦尔萃尼氏ト云人アリ或時越列機ノ試験ヲ行フ其試
 室ノ内越列機益^之近キ処ニ皮ヲ剥ル蛙アリ^ガ越列機
 ヨリ火屑閃散スル毎ニ其蛙ノ手足搐搦(ストイブレキトク
 スルヲ見タリ瓦尔萃氏之ヲ觀テ驚キ退テ熟考スルニ金屬
 ハ此動物ノ神経及筋ニ感動シテ連ニ牽縮(サーニテクニ
 ヲ起ス)ヲ知レリ因テ此ニ *bioelectric test* (electric
life animal) ノ名ヲ命ス。○後之ヲ記メ世ニ告明セシニ當
 有名ノ學士競ヲ其說ヲ講シ其理ヲ踪蹟ス就中意太
 利亞ノ學生 福尔荅氏大ニ瓦氏ノ說ニ増益セリ。○エテニ

此機能ニ改メ名テ

ヒルク^ノ醫學會議ニ大學士ケ^レ左ノ書出^ルヲ^メタル^ルヲ
 リツケル(イルリタ子ニテユム)メタル^ルト名ク然レ^ル如此名ケ^ルバ
 人々^ハ金屬^ニ此機能ヲ為スト思ヘシ故ニ^ニ極當ノ名ニアラス全
 屬^クニナラス炭。水。等モ此机力ヲ為スナリ^ニチ^ノル^レイ^キエ^シキ
 ノ名モ^テえ^ズ其^ノ者^ハ人ノ^ノ言^ヲ殘^ニモ便ヨケ^レバ^ガル^ハニス^ニユス^ト
 名ルヲ良トス

千七百八十六年ノ^一ニ^ニ元^ハ日^ノ記^ニ云^フボウ^ロク^子ノ^一醫書生^ハ活^鬼
 ヲ^テ剖^觀ス^ル片^已レ^ノ *Stapel*. 鬼ノ^一神經^ノ一^枝ニ^一觸^ルル^ハ中
 越列機ノ^一動^ヲ手^ニ覺^知セ^リト云^フ其^ノ理^ヲ了^ラサ^リシ^ナリ
 瓦氏^モ千七百八十六年^ニ初^テ此^ヲ發^明シ^タレ^トヨク^ク其^ノ理^ヲ老^得
 テ^コレ^ヲ動^体ノ^一エ^シキ^トス^然レ^バ瓦氏^ヲ鼻^祖ト^ス

瓦尔萃尼ノ見象ヲ生セシムル法ハ神经ト筋纖維ノ
 一鎖ヲ一連セシムベシ。○此ニ就テ一圓形 (circle)
 (verkle.) ヲ為ス其一弓 (boog. (arc.)) 試ト又
 ル処ノ動體其他ノ一弓 (opwekkende werktuigen
 (instrumenta excitatoria)) ナリ此ハ種々ノ物ヲ
 以テ作ル此ヲ動物ノ体ニ櫛ス故ニワレニニケシ又
 金属ノ錢板 (シエホルツ) ト名ク按ニ消積兩道此兩箇
ヲ兼テ云フ
 ノ錢板ヲ相合スルニ用ル者ヲ導者ト名ク
 瓦尔萃尼ノ円形ヲ全ク現セシムル法ハ蛙股ヲ取り
 皮ヲ剥キ膝マテ股神经ヲ剖露シ此ヲ亜鉛板上ニ
 置キ其脚 (ペーシ) ノ筋ヲ銀板上ニ置キ而シ後或銅

或錫或鉄或鉛ノ線曲ヲ以テ兩金錢ニ子ヨクト跨接
 ス跨接スル毎ニ夫ノ鍍板ギン上ノ脚筋拮掣 (ストイプ
 テレツケニス) ○神经ヲ兩金錢上ニ置キ筋ハ金錢外ニ
 ハツシテモ亦此拮掣ヲ見ル此ニ因テ神经ハ突ニテ
 レイキヲナルヲ知ベシ。○又金属ヲ假ラズ一動体上ニ
 於テ瓦尔萃ヲ圓圍セシムベシ其法生蛙ヲ取り腰ノ
 神经ヲ剖露シ此神经ヲ其蛙ノ股ニ觸レシムレバ其
 觸ル、タビ毎ニ股ニ拮掣ヲ費ス。○此試法ハ大学師
 亜尔突尼氏ノ創案ニ出ツ神经ノ神力筋ニ感應ス
 ルヲ確證スベシ
 表被ハ瓦尔萃机ヲ断絶ス故ニ表被ア足部ハ瓦尔萃

ノ感觸鈍ニ但ニ表被アル部モ湿リアリ皮薄ク腠理
精キ部ハ全ク其機能ヲ断絶セズ左ノ試ヲ以テ知
ルベシ

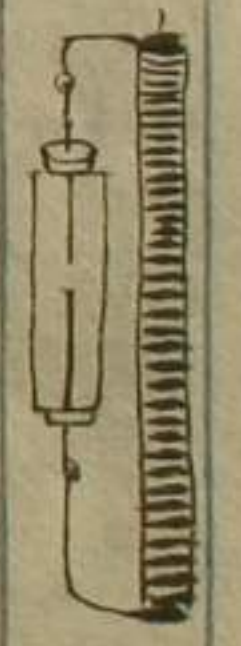
舌下ニ亜鉛板ヲ置キ舌上ニ銀板ヲ置テ其板端ヲ
合スレハ酷厲ノ味ヲ覺ヘ兼テ微閃動ヲ覺フ○又亜
鉛針ヲ右眼ニ當銀針ヲ左眼ニアテ、其二針ノ端
ヲ合スレハ^{眼ニ}火屑ヲ觀ル○銀針ヲ口ニ銜ニ錫銅等ノ
針ヲ肛門ニ挿シ鉄線ヲ以テニ針ヲ導連スレハ全
腸ニヒビキテ口ヨリ肛マテ著ク振動シ微腹痛ヲ發
シテ後下利ス○ヒムホルト氏ニ発泡膏ヲ^打頸小背ト
ニ貼メ表被ヲ剥キニ金ヲ當テ導連スレハ^打刺刺痛

亜鉛

ヲ發シ湯乙様ノ血ヲ滲流ス
オゾ空ツケテテハ三種ニ種或ハ一種ノ金屬ヲ以テ
造ル或ハ鉛解メ合和シ或ハ他ノ金屬及山物(炭様
素アル山物)ヲ以テ合体セシム^ル金屬ハ力最モ強シ但
千八百年冬月予氷柱ヲ以テニ金屬ヲ導連セリ
之面廣キホド力強シ○金屬ノ内力ノ強弱アリ亜
鉛金銀錫ヲ最強カトシ銅鉛尼結尔安質之ニ次ク
其金屬ノ重サ可銀質等ニ目ル
百六十九)カルハニセオゾ空キハ^ルヘイト^ル筋ノ^リツケルハ^ル
ヘイト^ル如シ筋久ク勞動スレハ筋力脱シ暫時勞動
ヲ休スレハ筋力故ニ復ス○神經及諸筋アルコホル^ル或

阿芙蓉ニ浸セハ衰弱ニ麻醉ス生人ト魚モ此ヲ過度ニ
 用テ神経ノ運管ヲ麻木ス○過酸鹽酸ニ浸セハ夫ノ麻
 醉セル部外故ノ如ク刺衝ヲ受ベキニ復ス
 百七十 瓦尔萃尼流体^{即氣ノ}温血動物ニ感受スルヤ
 其自然温消スルニ隨テ其感受衰弱ス且其^筋動物
 ノ生機此機ノ搦掣運動ニ因テ既ニ絶スハ温燠ハ
 全ク消散セズト魚モ感受セズ○冷血ノ動物ハ此ニ
 反ノ既ニ身首處ヲ異ニシタル後モ并ニ腐敗ノ機生
 スルニ至テモ能ク此機力ヲ感受ス蛙ハ冷血ノ股断切
 ノ後此機ニ感スル方如シ○
 百七十一 福尔荅装置^{「瓦尔萃尼提格羅模」}

福尔荅氏創案ノ装置ナリ今之ヲ畧説スルニ第一ニ亜
 鉛錢ヲ置キ其上ニ湿厚紙ヲ置キ其上ニ銀錢ヲ積
 ム次第如此積テ類尺ニ至ル高キホド力強シ兩極
 ニ鉄線ヲ着ク導者ナリ其鉄線ヲ取テ合スルゴトニ柱
 ノ兩端ニ火屑ヲ敷ス○^{「Cand. Davis氏ノ」}「^{エトキトルメ」}ト
 ヲ以テ此柱ヲ考ルニ亜鉛ヲ以テ終ル柱端ハ^積スル
 リフニメ銀ヲ以テ終ル端ハ^消オントケニ子ニテナリ
 手ニ水或塩水ヲ湿シ精消ノ兩端ヲ一齊ニ把シ六指
 腕ノ節ニ撞刺ヲ覺フ數人手ヲ携連テ^{「イトセ」}トセス
 ノ試ノ如クスルモ亦撞刺ス
 玻璃筒ニ水ヲ充盛シ枹木ヲ以テ其兩端ヲ塞キ同

類金線二條ヲ取テ兩塞ニ針串キ二線ノ端水中ニ
 一二分。雜シテ相向ハシメ筒外ノ線端ヲ一ハ上ニカケ
 一ハ下ニ繫ケバ  亞鉛極ノ線ハ水中ニテ
 氣球ヲ發ス此水素瓦斯ナリ銀極ノ線ハ水中ニテ
 酸化ス○水中ノ二線端ヲ距離セシメ層接スル水
 鉛極モ水素瓦斯ヲ發セズ銀極モ酸化セズ○柱ノ
 亜鉛銀銀極モ亦酸化ス但シ濕紙ノ當ル面ノ之酸
 化シテ背面ハ酸化セズ

福尔答柱ハ舍密家ニ在テ諸物ヲ分雜スル要益トス
 ○ヒュムプリイ 名達喜氏ノ舍密費録 一八名元素雙録
 板動用ニ曰集合ノ廢物ハ皆越列機ヲ以テ溶解ス予創

テ奇益ヲ試用シテ古来百方ノ分判变化ヲ見サレ
 諸物ヲ分雜ス夫ノ亞尔加里塩土類ノ如キニ越益
 ヲ用テ分雜スルハ則酸化ノ金属ナルヲ知ル

萬有ノ機性体特ニ人類ハ多般ノ異類体ヲ錯綜ノ
 成ル然則各自ラ越益ヲ具フ而シテ神經之力導者父

リ以下越性ノ魚類ヲ論ス別ニ澤ス

ハルレ氏 テイルライエ氏ノ説ニ福尔答柱ノ機力ハ尋常ノ
 越益發置ニ比スレバ神經及筋ニ感スル傳ニ尋常越
 益ノ發火法。閃動法ヲ以テ知覺セザル患部ニ福尔
 答柱ヲ用テ強ク牽縮ニ刺戟ニ起熱シタル經驗アリ
 曾テ一患者アリ顔ノ左方ノ筋麻痺ス越益ヲ用

テ閃動法ヲ行フト魚モ寸効ヲ見ズ此ニ五十對按百枚
 ノ福尔答柱ヲ用ヒ金屬鎖ヲ以テ導者トシ頰ノ處
 々ニ襯ス此目テ頰内ノ諸筋搐掣ヲ起シ熱ヲ生シ
 疼痛ニ九ク此ヲ用ルテ六閱月ニシテ全治セリ
 膀胱麻木ノ症ニ用ル法ハ亜鉛極ノ導者ヲ直腸ニ
 挿シ「シカラムベシ」或ハ股ノ上部ニ芫青膏ヲ貼メ表
 皮ヲ去リ銅極ヲ當ベシ婦人ハ亜鉛極ヲ陰腔ニ挿
 シ上法ノ如クスベシ
 人身モ他ノ造物ト同ク兩箇ノ反對力ノ指揮ニ從
 フ所謂反對力ハ喻引ト報轉ノ如ク膨充ト收縮ノ
 如シ「マダ子チスニユス」裁益力温声瓦尔萃九ク不可秤

ノ素類ハ皆此反對力有テ收引ニ報轉ス即チ積清
 アルナリ

鳥類ニ
 他ノ動物ヨ
 リ區テ十
 度

百七十二「骨質總説」人類モ他ノ紅血動物哺乳ノ
 獸鳥、コロイニテ。魚類ノ如ク骨ヲ内ニシ筋之ヲ被フ
 白血ノ動物ハ内ニ骨無ク外ニ骨質ノ甲殼アリ又
 内外共ニ骨質無キ者アリ植虫。ワルメニ。イニセキテノ
 類是ナリ。○骨質ハ内ニ在ルモ外ニ在ルモ同シ膠、鹽類
 加尔基質ヲ近成分トス。○外骨ハ蟹、蝦ノ甲殼ノ如シ
 毎歳新換ス。○鳥類ノ骨ハ他ノ動物ノ骨ニ異ナリ
 其首魁タル骨ニ管アリテ肺ニ通シ其管空ニ自然
 温ヲ以テ疏脹シタル氣充ツ鳥類ノ体輕ク空ニ翔

フハ此氣アルニ因ル
 身体長サ時ヨリ伸縮スハ晚ハ朝ヨリ短縮ス右ツホニノ況ニ其伸縮甚
 タ大ナリ右ツホニノ鳥類記載ヲ過半委子任シタル人ニ
 キエ子アウト云者アリ其子某身高さ衆ニ秀テ五
 尺九寸アリ名ガ一時球戯ニ耽テ終夜在場ニ在テ戯
 レリ此ニ因テ身ノ長十八重揮ハ十二云縮ム此縮短ヲ
 致ス故ハ踵ノ脂肪ノ織質ノ馳脱ニ因係ス
 百七十三 骨ノ造作脂肪ノ織質ノ馳脱ニ因係ス 骨ハ羣酸加ル基アリ此ヲ分離
 スル法ハ骨ヲ稀硝酸ニ浸セバ其加ル基ハ硝酸ニ親
 和シ骨質漸ク軟和シ曲揉スベク浸ス久ケレバ膏様
 質ヲ為ス一他ノ諸分ノ膏様質ノ如シ此織質中ニ

動靜ニ脈水脈補蔓ス○故ニ骨ハ膏様質ノ巴連舎
 馬ニシテ其室内ニ結具セル土質ノ中性鹽ヲ多ク此
 鹽ハ血中ヨリ分必ス○骨ヲハヒニアリセホトニ納者
 レハ骨中ノ機性分溶解ニ出膠是ナリ残ル処ハ鹽様
 ノ無機性分ノ之此無機性分土ト機性分膠トノ多
 少ハ終身ノ内同シカラス即チ赤子ハ機性分尤多シ
少年成人老人皆此ニ分各等シ○年々ノ人ハ骨傷
 治シ易ク老成人ハ治シ難シ此ハ羣酸加ル基ノ過
 大ナルニ因ルニアラス生機漸ク衰レバナリ
 百七十四 骨膜及骨髓ノ主用 凡ソ骨ハ其所在
 大小形狀各異ナルモ皆骨膜ナル者ヲ被ル此膜白色

纖維様厚靱ニメ諸管其質ニ錯綜ス○骨膜ハ骨人
養液ヲ全骨ニ蔓布スルニ在リ猶樹皮ノ樹身ヲ養フ
カ如シ然レニ植ノ皮ハ其裏皮老成スレバ漸ク材ニ化ス
骨膜ハ成熟ノ骨ニ化スルヲ無シ之ヲ異トス
髓ハ長骨ノ髓室及ヒ海绵質ノ窩室ニ充実ス舎密
家ノ説ニ其性質大ニ脂膏ト同ニ動脈ヨリ蒸散シ
来ル古人髓ヲ觀テ骨ノ養物トス非ナリ鳥類ノ長
骨ハ髓無クタハ氣室アルヲ見テ知ベシ○髓室及ヒ
髓ノ主用ハ言難シトス
百七十五「ゲウリクテシ」ゲウリクテ軟骨「バンデン」リトホ
クト一名ゲウリクテホクトヲ論ス○諸骨ノ連合スルヤ

其連合ノ處運移スル者アリ否ル者アリ「タニドナ」デ
シ「及ヒ」トキ「ツ」ナリ「デン」ノ如キハ骨ト骨ト連合スル處運
移スルヲ無シ釘ノ固メタル如シ故ニ之ヲ「オニベ」グ「レ」キ
フル「エ」ニキ「ニ」ケシ「シナル」ト「ロセ」ト称ス此他一切ノ骨ハ連
合スル處運移ス之ヲ「ベ」グ「レ」キフル「エ」ニキ「グ」ハ「アム」ヒ「ア
ト」ロセス又「ゲ」レ「デン」ケシト名ク此章ハタハ此連合ヲ論ス
○諸骨連合ノ際間ニ葉片ノ如キ者アリ眞骨ニ比ス
レハ軟ナリ之ヲ關節軟骨ト名ク弾力アリ「モ」ルガクニ氏
云ク動物ノ内ニ就テ弾力尤大ナルハ此軟骨ニ如ク者
無シ
リットホクトハ常水ヨリ重ク色無シ他ノ諸液ヨリモ粘

滑ナリ蛋清多シ「マルキエロシ」曰ク酸液ヲ加ハシ延續
ヲ引ク鹽酸曹達炭酸曹達、毒酸加尔基アリ。全
液四分スレバ水四分ノ三ニ居ル

百七十六 關節ヲ久ク運動ヲ体ハ中ハ節延ハ分泌
減耗ス且ツ漸々ニ其量減少ス加之久ク運動ヲ絶スレ
バ關節ノ表面乾燥シ滑利ヲ失ヒ互ニ刺戟シ激衝
ヲ發シ○此ニ因テ「ゲウリタトフルステーヒニク」ハ「アインケイロ」
ト名ル病ヲ發ス此病ハ關節ヲ纏絡スル靱帶ノ木強ス
ルニ因ル

百八十五 患者仰卧スルハ腐敗熱失苟見倍苦其他收
縮機械ノ衰弱ニ因ル病ノ徴トス平人モ遠行等ニ因テ

勞ス六其夜仰卧ス

百八十六 跳ビ「スワムメル」云曾テ冬蝨ヲ以テ其
跳ビノ高サヲ測ルニ其体ノ長サト比シテ高サヲ比例スルニ
一ト二百トノ如シ蝨ハ如此類ニアラス亞辣比亞人蝨ヲ
飛父ト名ク

百八十七 游泳「水上ニ於テ困難スル」人ニ若ク者無シ

第九篇 声音 言語

百九十二 「凡ソ肺アル動物ハ皆声アリ魚ノ如キハ肺無ク止
鯉アリ声無キ所以ナリ」○声音ヲ為ス者ハ喉頭ノ五軟
骨ナリ○四神経アリ總名メ喉頭神経ト云フ之ヲ上下ニ

別ツ此神經ハ第ハ対神經 セロトニン ヲヨリタル

鳥類ハ体ノワリ合ニ比スレバ声高シ此ハ体中渚処ニ大気アル
故ナリ且ツ鳥類ハ気管ノ頭ニ複重ノ喉頭アリ

第十篇 生々蕃息 ホルトテリシク

百九十五 婦人二十歳ヨリ二十七歳マデ間ニ尿血夥
ク出ルアリ

百九十七 人ハ游北ノ時候無シ獸ハ己アリ狼狐ハ冬ノ仲ニ
アリ鹿ハ秋ニ於ルガ如シ臭蛙ノ類ハ春ナレ尺歳ノ寒暖ニ
随テ屋速定リ無シ

百九十九 狗ノ如キハ精囊無シ交精スル間久シ其間ニ精

ヲ聚テタ、一二滴射出ス

二百一 婦人陰器

二百二 情慾費ノ陰具勃起スルハ舍密、益械、動性ノ
三機ニ曰ル

二百二 器ニ受ケタル精ハ一種ノ蒸気ヲ費ス植物ノ粉
粉特ニ粟カヌタニホムノ莖シヤトシノ如キ者ヲ費ス

二部ヨリ就ル其一ハ稠厚ニメ麩ノ如ク其二ハ粘膠
白色稀薄ナリ○クエリン氏精ヲ分析ノ曰ク水九十

分動物素六分、羧酸加ル基三分、曹達一分○此曹達
ヲ含ム曰テ堇花舍利別ニ和メ緑色ヲ費ス所謂動物
素ハ純粹ノ蛋清ニアラスゲイアク子ヘスレイムニシテ此カ

精ニ水ニ和セザル性質ヲ賦ス

精虫ハ入道ヲ知ル年ニ至テ見ル鳥ノ精モ孳尾スル時候
ニノミコシヲ見ル○精ヲ滲過スルハ五回ナシバ此虫ヲ見ス
○精ヲ取テ十時ヲ経レバ此虫自ラ死ス

○或云精ハ稠厚ノ液ニ鑽透セスタ、其蒸気ニ通
卵ヲ游化ス其蒸気ヲ名テ「アウレアセミナリス」ト云フ

○婦人月経ノ後ハ子宮口ノ約力後ニ故ニ交テ妊シ易シ
二百四」依ト加刺得。互列紐斯等ノ説ニ受胎ハ男女ノ
精子宮ノ腔ニ合和シテ生スト非ナリ婦人ハ精無シタ、
交接時美ノ際腔ヨリ滑涎滲出ス此涎ハ腔ノ内側
ニ在ル小腺ヨリ滲出ス雉馬斯「バルトルリニス」此腺

ヲ *prostatata* *Sex gland* ト名ク

妊婦「造化生々ノ功ヲ貴ニズルヤ疫及他ノ天行病以行ル

中モ妊婦ハ此ニ感スルヲ少シ妊婦危篤ノ病ニ嬰ルト虫モ
分娩スルマテハ命ヲ保續スルヲアリ ○但シ妊婦ノ骨傷

ハ分娩ノ後ニアラザレバ治セズコレ成骨ノ氣ヲ子宮ノ胎ニ送
ル間斷無キニ由テナリ ○妊婦ハ胎ニ膀胱ヲ壓レテ尿ヲ多

ク貯ヘ難シ故ニ小便敏數ヲ為ス又肺ニ腫氣アルガ如ク太
クナリ足ノ脉膨脹ス

二百六」胎児及胎衣」 受孕ノ後子宮内ヲ觀ル
中ハ物無シ數日ノ後子宮内ヲ見レハ膜様ノ小胞ヲ見

○受胎後十七日ニハタ、膠様透明ノ体ナリ心蔵ノ部ニ當テ

紅色ノ細点ヲ見ル ○先ツ頭ヲ成ニ次テ小瘤ノ如キ者ヲ
 生ス手ナリ其後足ヲ生ス ○神藏ノ具ノ内ニ六最初ニ
 眼ヲ生シ受孕一月ノ後ノ胎ニ黒点ヲ見ル是ナリ第三月
 至テ鰭テロヲ開ク ○分娩ノ序ニ至テハ胎長サ十六寸或
 ハ十八寸其重サ七八此ニ至ル見ノ小丸者モ一此ヨリ輕カ
 ラズ大ナルモ十此ヨリ重カラズ曾テ胎児七寸。七十七ヲ
 秤量ニ試ルニ十此ノ者ニヲ見タリト云「ハウテロク左」書
 ○受孕ヨリ分娩ニ至ル中ゴロニ當テ膽汁ト脂肪ヲ分
 離ヲ始ム胎児ノ胎糞ハ「ピツキストフ。メコニウム」ハ始メ粘
 滑無色ノ液ヲ腸内ニ充ツ此ガ受孕分娩ノ中ゴロニ至
 ハ黄色ヲ作スヲ以テ知ルベシ ○第六月第七月ノ間ニ瓜

生ハ眼ヲ蓋フ硬膜裂ケ ○腎ハ初メ十五或十八箇ノ小
 腎ヲ生シ口ガ後ニ二ツニナリテ兩側ニ在リ

胎ノ男女ハ十四週「按ニ九十八日」ノ後始テ分別スベシ。

或云胎児ニ在テハ動靜ニ脈ノ血差別無シハルレ曰胎
 児ノ血其々暗ナリ「アウテリ」ト曰ク胎児ノ動脈ノ血ハ母
 ノ靜脈ノ血ノ如ク暗色ナリ ○胎児ノ温度ハ母体ヨリ冷
 ナル一列氏ノ三度許ナリ

二百九「臍帶ノ長サハ臍ヨリ胞衣ノ蒂マテ自二十寸至
 二十四寸」*of 6 decimeters, 6 centimeters, or 9 mi-*
limeters. ○或ハ僅ニ六寸許ノ者アリ「バウテロク」ハ曾
 テ五十七寸アリテ兒頭ヲ七回卷キタルヲ見タリト云

ろ

二百十二「胞衣」胎児ヲ包ム者ニテ二膜ヲ以テ成ル此二膜相重ル其外膜ハ種毛有テ鷲絨ノ如ク子宮ノ裏面ニ接ス「ハートフリース」（叔里翁）ト名ク其内膜ハ直ニ叔里翁ニ接シヤ、薄シ「レカプスフリース」又ラムフリース（亜牟尼翁）ト名ク○第三膜アリ 汾的尔氏之ヲ「アフスル」ニテフリース「membrana cadulata. decidua」ト名ク至薄ノ膜ナリ叔里翁ノ外面ニ在リ○胞衣ハ臍帯ノ支末會聚ノ厚大ヲ致ス者ヨリ外ナラズ

亜牟尼翁ヨリ汚乙様ノ液ヲ滲出ス之ヲ水衣水ト名ク輕臭アリ味淡ヤ、粘滑ナリ蒸餾水ヨリヤ、重シ二百、一百。四ト、如ク蛋清外曹達、塩酸曹達、羧酸加尔

基ヲ含ム「ビニス」及「クニ」名リ之ノ發明ニ出ツ此諸素ハ僅ニ全量ノ無キ無百十二分ニ居ル○堇花汁ヲ綠変以但シ「ソニ」子ブルムトノ浸汁ヲ紅変ス右ノ兩学師此ニ因テ「亞尔加利」ト一種ノ酸ヲ言フヲ知ル但シ酸ハ甚々僅小ナリ且其酸性揮發シテ婦人ノ水衣水ヨリハ其酸ヲ取ルヲ得ズ牛ノ水衣水ニハ其酸著クアリ「ビニス」及「クニ」名リ此ヲ水衣酸（アミ）テ「亞牟尼阿名」ニシルハ「ト」ラホクトト名ク○水衣ノ性母ノ食物ニ因テ變スルアリ曾テ娠中ニ水銀膏ヲ摩用シタル婦人ノ水衣ニ銅ヲ浸メ銀色トナリコヲ見ル○水衣ハ動脈ヨリ蒸發シ水衣内ニ溜溜スル者ナリ

二百十四臨盆 バウテロクを卷ニ終ニ云「ヲ・マテルニテ」ホ
スヒタルニ於テ自「千七百九十七年テセムフル十日」至「千八百〇
六年ユリ」ノ三十一日「マデ」殆「ド」十年ノ間ニ産兒ノ數凡ソ
一萬二千六百三十三」 其内

背向倒首ノ者 一萬二千六百二十

○其余五百十三ノ内 顔ヲ前ニテ産兒六十三

尻ヲ前ニテ産レタル者 一百八十九

足ヲ前ニテ産レタル者 一百四十七

膝ヲ前ニテ産レタル者 三

産子ノ數「一婦二十四子ヲ産シ三十三、三十九、五十三、凡ソ
産スル者アリ」○此垂聖利加ノ一婦五百兒ヲ産ス其内二

下算不合
他日ハツテ
ロクノ書ヲ
見テ考ヘシ

百〇五死セリト云

二百二十「渾ハ滋養ノ食物ニ役テ多クアリ」○稀渾ト蠶モ
水ヨリ重シ

○出產ノ初ヨリ子宮ノ周圍弛緩シテ血ヲ漏泄シ後ロヌアク
チ乙ト為リ終ニ白色粘液ヲ為ス德テコレヲ「カラムフイ」レシ
ト名ク

ト名ク

二百廿一「初生ノ兒ハ始テ呼吸スル件大氣肺ノ全部ニ通暢セズ
特ニ肺ニ一三ノ硬クメ收斂シ用カサル部アリ此ニ大氣通入セス

或ハ全ク收用スル者アリ」○一赤子生テ第二十日ニ死セリ

大學師「ホイエル」其家ニ招シテ解觀ヲ請ハル學士剖テ彼

ニ見セタルニ肺ノ後部硬クナリテ用暢セズ、其前部膨レ

ニ見セタルニ肺ノ後部硬クナリテ用暢セズ、其前部膨レ

レテ氣ヲ通ス故ニ輕ニ水ニ投メ浮リ因テ死ノ原由ヲ知ル

第十二篇 終身ノ時限。天稟。人類異同。死終、

腐敗等

百二十三 ^三キ下スヘイト 赤子先ツ表被漸ク厚クナリ表

被ノ赤色淡クナリ皺紋消シ顔ニ蓋ノ短毛脱シ尻形変シ

○生レタル月ハ食ト眠ノ外他事無シ ○漸クニ物ヲ直視シ

視物ノ智ヲトム諸事皆泣テコレヲ知ラセリ 弟二月ノ仲ゴロニ

當テ喜ビクニココロ

百二十四 ^三生齒 生レテ弟七月ノ終リニ當テ上頰ノ銀ニ

子イタニテニヲ生ス漸次ニ下頰ノ切齒發生ス

(注)同日熱大抵弟七歳ニノ自ラ截断スル者多シ又

替留熱ノ病毒分利ノ泄瀉汗等モ大抵七歳ニ

因テ弟七日。弟十四日。二十一日。ヲ以テス甚々解スヘカ

ラズ胎ニ在ルノ間ハ九月ニ生齒ハ弟七月ヲ以テシ不

弟ニノ胎生ハ七歳ヲ以テス亦解スヘカズ女子ノ嫁時

至テ経血来ルハ十四歳ヲ以テス七歳ニ因ル古人天類ヲ

論スル〔ピタゴラス〕信スヘカラス齒モ三七九ハ天數ト云ヘキ

ニ似タリ

其後兩側ノ切齒ヲ生シ下頰ノ切齒次テ生シ其後狗牙

ヲ生ス ○十八ヶ月即チ弟二年ニケイ子マノルタンドヲ生ス

但ニコロハ他齒ニ反メ下頰先ツ生シ後ニ上頰ニ生ス此齒生シ

了六則第一度久生齒終ル○齒二十生了ル処ノ兒ハ
第四年メノ終リニ每類ニ新齒ニツラ生ヌ○第九歳ニ
三箇ノ新大齒ヲ生ヌ○兒二十八齒生シタル者生齒全ク
了ルナリ然レハ十八歳ヨリ三十歳ノ間ニ左右ニ一牙ヲ生ヌ
ヲテテレタニテシ又智齒ト名ク

〔増沢〕淑齒齒ノ各ニ云入ノリ上下左右ニ五ツト通計ニ
十自初生至二歳タニ二箇アリ三歳生三箇四歳生
四箇但有遲速至十八九或二十歳四五二十具方
此時生名智齒○齒齒有根々數不同第一齒一根
第二齒二三根第三齒三根第四齒大二根或四根
合生為一大根

百二十四 ベンウルクニク

百二十五 「ヒルバールベイト」 此地方寒暖生業等ニ因テ
遲速アリ女ハ男ヨリ一二年早シ南地ノ人ハ北地ノ民ヨリ早
シ亞弗利加、亞細亞、亞墨利加ノ暖地ノ婦人十歳九歳
メ嫁スベシ佛蘭西ノ女ハ十二歳十四五歳ニ嫁シ換亦
齊魯西亞、弟那瑪尔加ニテハ經血未ルヲ以テ嫁ス他國
比スレハ二三年遲シ

男子ハ精血充實シ声音変シ類ニ鬚生シ陰具生長ス
百二十七 經血 常度中等ノ婦人ハ經血未ルニ二日ヨリ
八日ニ至ル其量自三ヲ至一ト多血ノ婦人ハコレヨリ長ク
来リ多ク来ル○婦人經事ノ間ハ衰弱シ知覺敏捷ナリ

経血ノ来ル間ノ長短及其秤量ノ多寡ハ地ノ寒暖ニ從テ
異ナリ亞弗利加ノ女ハ殆ト常ニ経血アリ「ラプランド」ノ婦人
ハ年ニ二三度ノ経血ヲ見ル。○リニヤルト「メアト」ノ考ニ婦人
ノ経血ハ月輪ノ能力ニ関係スト云ヘリ盡ク信シ難シ

○我ニ於テハ四五ナテ経血止ムヨリ早ク止ム者アレハ遲キハ
稀ナリ然レモ予曾テ七十ノ婦人高経血止マサル者ヲ見ル。○婦人
止経スバ乳房萎細シ脂肪減シ層皺ヲ生シ剛硬ス

二百二十八「マニ子レイキレフテイド」ヨニケンスカップ「
如此名ク自二十一歳至二十五歳ヲ云フ男子此ニ至テ身長
定ル然レモ其横ニ長スルハ止マズ」筋骨固シ。○田中子ハ
自二十五至五十歳或五十五歳マテ婦人ハ至四十五歳

マテヲ名テ「レイペンレフテイド」ト名ク

二百二十九「天稟」

二百三十六「オウヴルトム」及「アスケレフストヘイト」○成長ノ

遲速ヲ以テ生命ノ永短ヲ測ルベシタトハ僅ニ二三年ノ

スル狗ハ僅二十年十二年ノ壽アリ三十年ニヤウヤク成年スル

人按ニ常人ハ二
五テ長スル極ルハ八十或ハ百歳ノ生ヲ保ツ魚美ハ長スル

極テ遲シ故ニ數百年ノ壽アリ

二百三十八「死期」人老テ生々ノ道絶スルハ経血止ムヲ

以テ知ルコレヲ確徴トス然レモ男子生道ノ絶スルハ甚々

切実ナラズ老人精液アル者モ真ノ精ナルモアリ精衰ノ滑

液攝護ノ精ナルヤ知ヘカラス陰具ノ勃張スルモ亦切実ナ

べし尚且諸液大過之病ト曰ヒ諸液不足之病ト曰ヒ
酸性游離之病ニ爾加里游離之病ニ銹蝕之病
土類過不及之病等アリ皆其支別ノ之ニ又成形力
カラスナセ^{プラスナセ}之過不及ニ因ルタトハ血液燬衝スルニ成形
力ノ過太ナルナリ血液腐敗スルハ其不及ナルニ因リ
○然則酸素温素水素窒素燐ノ如キ亦病毒ニ屬
スタトハ酸素ノ如キハ肺ヲ燬衝ニ或ハ壞疽トシ血ヲ
深紅色トシ其運行ヲ疾速ニシ筋モ赤色ト為テ器
性ノ刺戟及ヒ合密ノ刺戟ニ感シ易シ水素ノ如キハ
發疹病ヲ為ス小兒孕婦行徑ノ婦人ハ水素多シ故

發疹ノ病ニ嬰リ易シ

數種ノ病毒一齊ニ感受スルヲ稀ナリ既ニ一毒ニ感スレ
バ已ニ他毒ヲ拒ニテ受ケズ猶植物ノ花柱其同一種ノ
花粉ヲ受テ妊スレバ已ニ他ノ花粉ヲ受サルガ如シ^植
^字 啓原^又又病毒ノ傳染スルガ如キ其病者傍ニ在ル母ニ
傳染スルニアズ老境ニ至テ始テ傳染スル者アリ或ハ終
身感セサル者アリ猶婦人受孕ノ如シ合歡一夜乃
チ妊スル者アリ同房十年或ハ十五年ニ始テ重身
スル者アリ或ハ終身不孕ノ者アルガ如シ
傳染毒多クハ揮發性ニ瓦斯ノ如シ疫毒、黃熱毒、神

經熱毒ノ如シ炭性水素硫性水素等ヲ含ム其臭氣ヲ
以テ著ク知ベシ或ハ固形ニ目ニ視ベシ患者ノ身体ヨリ
分泌スル諸液中ニ在リ傳染毒ノ性亞ル加里ナリ紅
変勒佉母斯ニ点スレハ青色ニ変ス之ヲ温ハ其毒性
揮發ノ復タモトノ紅色ニ還ル

○焮衝膜

刺絡ノ出ル血ノ上面ニ被フ白黄色ノ膜ナリ○焮衝ノ諸
病冒寒傷冷ノ諸症ニ多シ馬ノ血ニハ常ニ此ヲ生ス○血
ノ纖維分ト湯乙ト合ヌ成ル

○羅乙斯ノ假膜

病ニ目テ内蔵ノ面ニ被フ白色不明ノ薄膜ナリ咽喉肺
ノ焮衝カラム熱等ニ在リ○血ノ纖維分ニ湯乙ヲ和
成ルハ焮衝膜ト同シ○滲氣ニ中ハ乾テ角ノ如ク水濕
中ハ速ニ腐敗スルハ血ノ纖維ノ如シ
水ヲ加テ研一スバ溶解ス真ノ溶解ニアラズ此溶液ニ

純厚ノ加里液ヲ和スレハ膠ノ如キ者沉ム

○水腫ノ水

卵巢水腫心包水腫 黄色膠様甘味アリ或ハ微鹹ヲ帶ブ
腹水其他水腫ニ有リ 血汚乙ノ性ヲ変スル者ナリ 滲氣

ニ中レバ凝リ或ハ濁ヲ生ノ腐敗ス ○其性亜尔加里ニノ

董花舍利別ヲ綠変ス ○沸湯ノ熱度ニ至レバ凝固ス

但ニ沸湯ヲ加レハ乳白色ト為ル諸酸ヲ和スレバ凝固ス

但ニ消酸ハ此ヲ凝固セズ ○亜尔加里ヲ和スレバ稀薄ト

為ル然レハ純厚ノ加里液ヲ和スレバ膠様ノ渣ヲ沉降スル

者アリ 亜尔箇兎ヲ和スレバ凝固シ 金屬溶液ヲ加ハ渣生ス

○膿

膿ハ

創一瘍初ノ焮熱アリテ後白黄色ノ粘液ナリ

○善性トアリ惡性トアリ善性

ノ膿ハ白色微黄輕臭アリ 体ヲ出テ温氣ヤ、久ク散ゼズ

味甘シ 肺瘍ノ膿痰ノ如シ ○水ヨリ重シ水ニ略出スレ

バ沉ム又脂ヲ含クテ乳酥ノ如シ ○顯微鏡ヲ以テ

觀レハ透明ヲ白色ノ細球ヲ雜フ ○沸湯ヲ加テ振蕩ス

レハ乳汁ノ如シ ○然レニ之ヲ静定スレバマ々水ト分

雜ス ○亜尔箇兎ヲ和スレハ稠厚ト為ルコレ 亜尔箇兎

膿中ノ水分ヲ吸フニ因テナリ ○醇厚ノ山酸ハ膿ヲ

溶解ス然レハ水ヲ加レバ復々分雜ノ其性初ニ異ナラス

炭酸亜ル加里ハ膿ニ和セス純厚ノ半炭酸加里液ヲ和
スレハ粘稠ノ膠ト為テ沉降ス此ニ酸液ヲ加レ復々故人
如ク流動ス ○善性ノ膿トハ新鮮ノ膿ハ董花舍利
別ヲ和メ色変ゼズ一ノ體ヨリ出テ大氣ニ中レ速ニ酸
酵ノ董花舍利別及ヒ勒佉母斯浸ヲ紅変ス大氣ニ
中ルテ愈ク久則敗酵^{更ニ}ノ諸模尼亞ヲ生シ董花舍利別
ヲ緑変ス ○惡性ノ膿ノ如キハ生人体内ニ在テ既敗酵
ヲ發スル者ナリ〔成分〕膠、蛋清、纖維分ヲ以テ成ル

○膿様滑液

黄白色ノ滑液ニ甚々膿ニ似タリ膿ハ初多ク焮熱有テ

後醸成ス此ハ初焮熱無ク出コレヲ異トス ○此液ハ寒
冒ノ將ニ愈ントスル中鼻ヨリ出傷冷毒ノ愈ントスル中氣
管ヨリ出ル痰、及ヒ粘液瘰ノ痰、或ハ胎兒眼胞焮衝ニ
於テ呼蒼模腺ヨリ出其他淋疾ニ由テ尿道ヨリ出ル滑
液婦人ノ白帶下等皆此液ナリ

此滑液ハ膿ニ似テ弁識シ難シ但シ左ノ法ヲ以テ試シ識
ルベシ ○其法タトハ此液一錢ニ微温湯一錢ヲ研和シ
乳様ノ液トシ純厚半炭酸加里液^{原酒石由一錢}
ヲ加ヘ玻壺ニ納レ振蕩シ靜定スレバ一時ノ後稠厚
明亮ノ膠ト為テ水ト分雜スコレ真膿ノ徵ナリ若其

液依然トノ乳様ノ質ヲ変セザルハ所謂膠様
滑液ヲ真ノ膠ニ非ザル徴トス

○膽核

膽液ノ凝固スル者ナリタ、苦味有テ他ノ膽味無シ大抵
栗殼色ニテ造質光芒状ヲ為ス。○水ヨリ輕シ水上ニ浮
燒ケハ華尔斯ノ如ク焚燒ス。○膽核ハ蛋黃、拔尔撒摩
固油、加酒石安質、丁幾劑、稀硝酸、勿弗滿鎮痛液
垂的兒的列並帝那油ニ溶解ス。○膽液ニ蘓魯林
精ヲ和スレバ凝固シ膽核ト一般ノ質ヲ為ス。其意
成分) ゲレノウ云膽核百分ハ其目下ニ向テ垂倍ス

蠟素 八十五分

蛋清分 十五分

○ホウルコイ膽核ヲ云テ六種トス其一ヲ膽様肝石
ト名ク肝液凝固シ成ル者ナリ肝ノ彼此ニ生ス。○其
二ヲ鯨腦様肝石ト名ク亦肝ニ在リ前種ヨリ堅シ
肝外ニ膨起シ見ベシ鯨腦様ノ分 按ニゲレノウハ所謂蠟素ナリ ヲ含ム
○其三ヲ胆様胆囊核ト名ク胆液ノ凝固スル者ナリ
寒中牛ノ胆囊ニ結生スル者ハ畫家十裝メ野へ美
褐色ヲ彩ス是ハ錫布等ノ如キ解凝劑ヲ用テ溶解
ス。○其四ヲ被衣膽核ト名ク外皮アリ皮質鯨腦ノ

開物全書
如之此核或ハ數百顆生ノ胆嚢ヲ膨脹シ每核數
面アリテ柘榴子ノ如キ者アリ○其五ヲ鯨腦様胆核
ト名ク灰色ニ先輝アリ透明ニ或ハ半透明皮アリ皮ニ
微細ノ條理アリ或ハ皮無ク片々層重ノ葱白ノ如キア
リ或ハ鵝卵大ノ者アリ特ニ婦人ニ多シ此石モ亦解凝劑
ヲ用テユク解釋ス黃疸其他ノ肝病ニ解凝劑ヲ用
レハ此石ノ片碎通利スルヲアリ○其六ヲ鯨腦胆質
併合ノ膽核ト曰フ大抵綠色ニ條理アリ或ハ片々層
生ス

○尿石 膀胱結石

尿中ニ結生スル石ナリ○尿ノ赤塗及ヒ臍痛ヲ患ル人ノ
ヱイヂニクスコウベニニ尿石ノ性アリ○尿石ノ成分ハ諸
家ノ説一揆セズ「ウールラスト」氏一個ノ新分ヲ發明ス
オニテセイスト名ク「ホウルコロイ」云フ○一日尿酸諸
模尼亞○二曰磷酸諸模尼亞○三曰磷酸加爾基
四曰磷酸苦土加諸模尼亞○五曰磷酸加爾基六曰
珪土」此土ヲ含ム尿石甚々稀ナリ尿石三百顆ヲ含ミ
此土アル者僅ニ一顆ヲ見ル○八曰膠○草食獸ノ尿
石ニハ安息酸アリ」
人ノ尿石大抵三種アリ集成ノ分各同カラズ故ニ一様ノ

剖ヲ以テ異類ノ石ヲ解釋スル能ハズ所謂三種ハ
其一塩質尿石此ハ尿酸或ハ尿酸諸模尼亞ヲ以テ
成ル小シク円ク或ハ扁シ細條理アリ淡黄ニ歌兮ニ乳
ヲ和スル者ノ如シ外面滑澤ナリ純粹加里液ヲ以テ溶
解ス

其二土質尿石 此ハ毒酸苦土加諸模尼亞ヲ以テ
成ル大抵外面ニ塩質ノ皮アリ或ハ其他膀胱中ニ
在ル異質ヲ皮トス内質白色スバトトノ如ク片々層
重ス一破碎シ易クヤ、透明ス塩酸或ハ硫酸ニ
溶解ス

其三ハ楳様石 外面粒点粟起ノ粗糙宛モ桑椹
ノ如シ其色赭或赤紫或ハヤ、黒シ堅剛ヲ琢磨ス
ベシ蔘酸加尔基多シ炭酸加里液或ハ消酸ニ溶
解ス

結石ノ性如此区別アリ其性体外ヨリ得テ察スベカラ
ズ故ニ医家之ヲ療スルニ先ツ純粹加里ヲ用テ試ミ効
ヲ見サル者ハ塩酸硫酸消酸等ヲ用ヒ試ムベシ或ハ内
服シ或ハ水鏡ヲ以テ膀胱ニ瀉注スベシ皆水ヲ加テ
稀クシ口ニ銜ムベキニ至テ用ベシ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "其六" and "其七".

依氏擴述賢哩卷四

膀胱结石四百四十三章

蘓亦齊ノ舎密家ニケレ千七百七十六年尿酸ヲ發明之且
曰ク尿酸ノ具聚結メ胞石ヲ生スト此ハ「シケレ」ハ尿酸ヨ
リ成ル処ノ胞石ノミヲ云ニ試ニ之ル故ナリ胞石ハ多種ア
リ概シテ尿酸ヨリ成ルト云ハ井見ナリ○又諸厄利ノ舎密加
ペアルソシ「千七百九十八年ニ一小冊ヲ著メ佛蘭西人ノ
所謂「アシデリチ左」ステレシエール」胞石酸ナル者ハ無
簪ノ説ナリヲ論ゼリ同書又曰「シケレ」ノ所謂胞石酸
ナル者ハ酸ニアラズ動物ノ酸化物ナリ「ホウルコイ」ヲ云ク

等此書ノ説ニ基據ノ胞石ノ性ヲ審ニス曰ク所謂尿酸外
胞石ノ原ヲ為ス者四五種アリ此數種ノ物或ハ單行ニ或
ハ他物ト結合ノ胞石ヲ為ス又曰ク「シケレ」ノ所謂尿酸ハ
真ニ一個ノ酸ナリ酸化ノ動体ニアラス但シコレハ胞石ノ原ニ
アラス故ニ胞石酸ノ名穩當ナラス尿酸ノ号ヲ當レリトス
○胞石ハ大抵一腎ノ盂ヨリ生ス大小形色一ナラス小ナル者
ハ輸尿管ヨリ胞ニ来リ胞ヨリ体外ニ通泄スヤ、大ナル腎
内或ハ輸尿管ニ結生メ胞ニ出テズ或ハ胞ニ出テ既ニ肥大
ト為テ尿道ヨリ出テズ或ハ他ノ起因ニ因テ徑テ胞内ニ生ス
ル者アリ或ハ胞中ノ他質ヲ被重メ層長スル者アリ

○大サ一様トスル自鵝卵大至雞卵大、多クハ帶黃色、木材色
或ハ深淺赭色ヲ形ハ蛋形ノ者多シ其面或ハ光滑或ハ
粗糙或ハ窟刺アリ桑椹ノ如シ之ヲ椹石ト名ク或ハ長刺
アル者アリ此石生スルハ大抵疼痛ヲ每々又危在トス
○胞石ノ自異亦一ナラス「一二一三」ヨリ「一九七六」ニ至ル○
臭氣或ハ尿様或ハ輕臭有テ至質（真）如ク椹石ノ如キハ其臭
象牙末ノ如シ○質大抵軟脆ニ槌テハ碎片ト為ル内ニ
核アル者ハ二三或ハ其余ノ層ヲ見ル鋸ノ兩断スルハ其質
明ニ見ベシ質半透明ナリ此石ハ大抵弄酸、苦土、諸摸尼
亜ヲ知テ成ル○若シ鋸断スル片甚々脆ク碎片ニ瓦解ス

者ハ毒酸加ル基ヨリ成ル者ノ徴ナリ○若シ甚々堅剛ニシテ
鋸截シ難ク其破裂ノ處緻密ニ暗灰色ナル者ハ礞酸加
ル基ヨリ成ル者ノ徴トス○或ハ結石ノ白層皮ヨリ成ル者
アリ此層皮ハ毒酸土質鹽ナリ其内ニ核ノ者アリ核ハ大抵尿
酸ナリ或ハ其後灰赭色ノ椶石ナル者アリ核椶石ナル者ハ其
層皮黄色ノ條理アリ尿酸ヲ以テ成ル○如此雜集ノ石ハ其
核星芒狀ナリ其核尿酸ナル者ハ其皮毒酸土質鹽ナ
リ尿酸ヲ以テ成ル核ハ蛋形ニ質星芒ノ如クナラズ其他
石性一様ナラズ○ホウロウ石ノ數多ノ石ヲ試シテ
凡ク諸般ノ石ハ七様ノ物ヨリ成ルヲ知ル所謂七様物ハ

一曰尿酸ニ曰尿酸諸模三曰毒酸加ル基四曰毒
酸諸模加苦土五曰礞酸加ル基六曰珪土及動素此ハ
石類ニ後テ一様ナラズ
ニケレ發明ノ尿酸ハ其性堅硬、結晶ス無臭味、水ニ殆ト
溶解セズ沸湯ハ殆ト十倍ヲ以テ溶解ス然レ冷ハ復々黄
色ノ細貝ト為テ水トタル○アルカリ液ニハ溶解ス然レ其
液ニ一切ノ酸ヲ和スレバ沉降ス炭酸尙然リ○硫酸鹽酸ハ
此酸ヲ溶解セズトシテ消酸ニテ溶解スサモ、種魯林精ハ甚々
溶解ス此酸具一皮ヲ一玻蓋ノ水底ニ沉メ置キ其水ニスロ
リニ瓦斯ヲ通スレバ酸具ハ面化メ膠ト為リ漸ク消化ノ僅ニ

六十分一信解セズノ残ル其倍化ノ際無数ノ細気眼ヲ生ス
即チ炭酸瓦斯ナリ此溶液ヲ火ニ上セ水気ヲ蒸散シ冷セバ
貝ヲ結ブ此貝ハ鹽酸誘模尼亞、過酸蔞酸誘模尼亞ナ
リ竟ニ貝ヲ結ハサルニ至テ其液ヲ蒸散シ乾セバ即チ蔞酸
ナリ但シ此試ハ中等ニ蔞魯林瓦斯ヲ用ヘシ「スロリン」ヲ過
用スルバ尿酸變化ノ水ト炭酸ト為ル

尿酸ヲ密蓋ニ納レ溜スルバ少許ノ水ヲ滴ス此水ニ誘模尼
亞、難ル而シテ尿酸ノ一分昇着ス少許ノ油ト靑酸出靑
酸ハ一分ハ流出シ一分ハ瓦斯ト為テ發ス挑臭ヲ以テ知ベシ
又象牙ヲ煨クガ如キ臭氣出最後ニ炭ヲ残ス其炭殆

ニド鹽分無シ以此觀之則尿酸ハ窒素、炭素、水素、酸
素ヲ以テ成ル一彰シ

〔尿酸誘模〕ハ純粹尿酸ノ如ク無酸アルカリ^液ニ溶解ス其
溶液誘模尼亞ノ臭アリ純粹尿酸ノ溶液ハ此臭無シ之ヲ
以テ純粹尿酸ト區別ス○此鹽ヲ含ム胞石ハ多少重片層
重ス每片光溜ナラス其石色乳ヲ雜ヘタル可喜ノ如シタハ
此鹽ノ之ヲ以テ成ル石ハ大抵小ナリ但シ此鹽ノ之ヲ以テ成ル
ハ稀ヲ大抵其層間ニ羣酸加爾基ヲ雜フ○此鹽モ溶
解ニ水ニ難キ^ニ純粹ノ尿酸ノ如シ

〔羣酸加爾基〕ノ有無ハ其石ヲ鋸スルバ甚タ碎ケ易ク其

色汚白色或ハ灰色ナルヲ以テ知ベシ此塩ヲ以テ成ル屑皮ハ
粒々相集テ其粒間ニ空虚アリ故ニ脆シ術ヲ以テ取出ス時
大抵餃子ノ間ニテ碎ク火ニ投スレハ黑色ト為リ燐毛ノ臭
ヲ發スタング○此石水ニ全ク溶解セズ者レハ所含ノ膠分出テ
其水輕キ不佳ノ臭ヲ帶フ○亞尔加里ニ溶解セスヤ、
強キ酸ニ溶解ス特ニ消酸塩酸ニ倍ク○此塩ヨリ成ル
石一片ヲ右ノ酸ニ倍シ而後水ヲ加テ飲ムヘキ程ニ稀薄ニス
レハ塩質ハ水ニ溶解スレバ膠分ハ膜状ト為テ凝リタル
〔弄酸諸模加苦土〕胞石此塩ヲ含ムハ「スパート」状ノ厚底ヲ
為ス或ハ他ノ成石分ノ間ニ同雜ス○此塩ハ堅ク半透明

鋸スレハ光輝アル白粉細ホヲ為ス弄酸加尔基ノ鼠色ニ粗
ホヲ為スニ異ナリ又左ノ舎密家目徴ヲ以テ他人成石分ト
區別スベシ即チ其石ハ弄酸加尔基ニ比スレバ膠分少ク又能
ク水ニ倍解ス然レバ結晶ノ常法ヲ以テ結晶ス他ノ塩ニ比ス
レバ諸酸ニ倍々易シ甚々緩弱ノ硫酸ニモ倍ク○又此塩ノ
一々集合ヲ容易ニ分難スベシ其法純粹アルカリ液ニ倍
セバ諸模尼異ハ幾枚ニ去リ苦土ハ蓋底ニ沉降ス
〔修酸加尔基〕此成石分ハ最年淺ニ易シ蓋ニ所謂摺
石ハ必ス此塩ヲ以テ成リ曾テ他ノ成石分ヲ以テ成ルハ無クバナリ摺石ハ外面ニ小瘤アリテ摺ノ如
ク其色灰色或ハ赭色裏ハ白ク鋸スル中象牙ノ臭アリ

○此石ヲ煨ハ真ノ加爾基ヲ成ス其量全石三分ノ二居ル
 ○酸ノ内ニテ消酸最ヨクコレヲ溶解ス○純粹ノアルカリハ
 此石ヲ溶解セズ然レモ炭酸アルカリ液ハヨク之ヲ溶解ス
 ○此石一疋ヲ細末シ尋常加里按ニ年炭酸ノ海ヲ以テ煮レ
 以速ニ溶解シ其修酸ハ加里ニ和メ修酸加里ヲ為シ加
 里ノ炭酸ハ加爾基土ト親和メ尋常炭酸加爾基ヲ為ス
 此ニ醋酸ヲ和スバ沸焔ノ速ニ溶解ス○或ハ醋酸ヲ加ヘ
 其流動スル修酸加里ヲ海過シ此ニ醋酸鉛液ヲ和
 スバ修酸ガ鉛ニ和メ不鮮ノ沉渣ト為テスル○此沉渣
 ヲ水洗シ足ルホドノ硫酸ヲ加レバ硫酸ハ鉛ニ和メ又不鮮

ノ物ト為リ其液中ニ修酸有リ此液ヲ煮テ放冷スバ精好
 ノ修酸ト為ル○修酸加爾基ヨリ成ル石ハ他ノ結石ヨリ
 多ク動体ヲ含ム此石他ニ勝レテ質緻細色深キハ動体多
 キニ目ルト云

〔珪土〕ハ結石ノ基始ヲ為ス者ノニ属スト雖モ此ヲ有スル者甚
 タ稀ナリホウルコイ「石」ニ在リ之「層」ヲ年未結石凡ソ六百
 呂ヲ分離セシニ「珪土」ヨリ成ル石僅ニ二顆ニ過キスト云
 其形状榎石ニ似テ色甚タ鮮明ナリ試ニ之ヲ煨クニ秤量初
 ニ比スレバ三分ノ一減シ真ノ加爾基ト為ラズ○酸ガモ感セズ
 純粹加里四倍量ヲ和メ堪ニ納レ焔解スレハ流動メ玻璃状

ヲ為ス之ニ塩酸ヲ加ヘ者テ蒸散スルハ一種ノ膠ヲ生ス此膠
珪土ノ諸徴ヲ具フ

ホウルコロイ」ヲニケリ」多數ノ結石ヲ分難ノ凡ソ十二頭種
アルヲ知レリ其内上ニ所謂成石分ノニ單成スル者僅ニ
三種アリ即チ左如シ

○第一種」尿酸ヲ以テ成ル者

○第二種」尿酸諸模ヲ以テ成ル者

○第三種」尿酸加ル基ヲ以テ成ル者

○第四種」尿酸ニ羣酸土質ヲ夾テ層生スル者

○第五種」尿酸ニ羣酸土質密和スル者

○第六種」尿酸諸模ト羣性土質ト層生スル者

○第七種」尿酸諸模ト羣性土質ト密和スル者

○第八種」羣酸土質層生スル者

○第九種」尿酸加ル基ト尿酸ト層生スル者

○第十種」尿酸加ル基ト羣酸土質ト層々スル者

○第十一種」尿酸或尿酸諸模、羣酸土質及ヒ尿酸加ル基ト和スル者

○第十二種」尿酸、尿酸諸模、羣酸土質及ヒ珪土ヲ以テ成ル者

ホウルコロイ」又結石ヲ碎ク藥劑ヲ考案ス曰ク内服スル

未夕効ヲ奏スベキ者ヲ見ズ、外ヨリ膀胱ニ銃射ノ漸々
ニ其石ヲ溶解スルヲ媒ルベシ其割ハ石ノ性ニ從テ一様ナラ
ズ○純粹加里或純粹曹達ハタゞ一味ノ尿酸ヨリ成ル
処ノ石ヲ溶解ス此ハ水ヲ加テ稀クシテ試ニ口ニ含テ口中ヲ敗
ラズ嚥下ノ咽ヲ害セサル程ニ膀胱中ニ射注ス尿酸石ヲ
試ニ此液ニ浸セバ數日ヲ溶解ス○尿酸諸模ノ結石ニ
モ右ノ効ヲ奏ス○毒酸加ル基ノ石及ヒ毒酸諸模
苦土ノ結石ニハ消酸、鹽酸効アリ此モ上ノ如ク飲ムベキ程
ニ稀クシ稀キリモノナラデノ味トシ胞ニ射注ス○蔘酸加
ル基ノ結石所謂樵石ハ稀消酸ヲ用ベシ但シ此ハ他ノ石

ノ如ク粹カニ効無シ炭酸曹達ノ液亦此石ニ効アリ
○ホウユロイ其他ノ人内服ノ劑ニホウユロイ曾テ有効ノ方無シト
曰ト垂モ茲ニ内服奇効ノ方アリ、アトクメピチーカアルカ
リナト云フ卷一ニ百二十四葉以下ニ洗ク

按ニ卷二百二十四葉ニアトクメピチーカアルカリナ一名アル
カリズゲタビレ アエラテユム 此ハ炭酸加里ノ溶液ナリ

○獸類結石

獸ニモ結石アリ又其病アリ馬系、牛特ニ多シ其石ハ炭酸加
ル基、及ヒ膠ヲ以テ成ル其石稀薄ノ諸酸ニ溶解シ易シ
故ニホウルコロネモ亦馬ノ胞石ハ稀醋ヲ日々尿道ヨリ注

antilopen.

法ヲ挙ク○馬ノ胞石ト所謂馬石(ヒッポリテス)ト混同シ
思フ勿シ馬石ハ胞内ニ生スル者ニアラズ非常ニ大ニ層生スル者
ナリ馬ノ腸内ニ生ス其成ルモ亦胞石ト異ニノ尿酸加ル基
羧酸諸模苦土ヨリ成ル○所謂「オストチニヂセ」ベツアルモ亦
馬石ノ類ニ属ス此モ胞石ニアラズ腸内ニ生スル石ナリ○所謂
オストチニヂセベツアルスハ胞石ノ類ニ属ス巨大ノ豪猪及ヒ
アニカロペンノ類ノ胞中ニ生ス帶赭或ハ深緑、長ニアル虫
形光滑テ大理石ノ如シ炭酸加ル基、膠ヲ以テ成ル色、
深キハ尿素多ク難ルニ因ル○人ノ胞石ハ或ハ全ク尿酸ヲ
以テ成リ或ハ多分ニ尿酸ヲ含ム此胞石ハ尿酸無シ

○イ、グト、カルキ四百四十四章

医家ノ説ニ「イ、グト、カルキ」ト胞石ハ甚々相類ス曾テ試ル
ニ臆痛凡ハ腎或ハ膀胱ニ结石アリ或ハ石淋ヲ患テ
其症ニ困難スル人臆痛烈ク發スルハ前患頓ニ歇ム者
アリ或ハ曾テ臆痛ニ困苦スル者頓ニ治メ石淋痛^{繼テ}發スル
者アリ○「テシナント云」イ、グト、ボイレシ^腫凡ハ「ストフ^{物ノ}
ハ特ニ尿酸ヨリ成ル蓋シ胞石ト同キノ溜ナリ此ニ及メ「ワルツニ
「イ、グト、ストフ」ハ自ラ容易ニ尿節液ニ溶ケ又油、或ハ
水ニ溶解ス胞石ハ然ラズコレ其異ナル処ナリ」諸家ノ説
一定セザル如此千七百九十八年「ホウルゴロイ」創テ曰ク

其質落葉松寄生ニ似テ甚々碎ク易ク薄膜彼此ニ通串
 粉ト為リ易シ此ニ反メ切斷スベキ^ス脂蠟^ス如シ其切処光澤
 有テ鯨腦ノ片^ス面ノ如シ○一片ヲ銀柑^スニ入レ煨ケハ惡臭アル
 諸槓烟焚シ滾沸シ終ニ黑色ノ者ト為ル之ヲ細末トスレ
 バ其味アルカリ^シ如ク一^ハ沸湯ニ溶解ス其溶液ニ硫酸鉄
 液ヲ和スレバ美丸^ルベルレイニス青ヲ生ス○然則アルカリト
 動物^ノ灰トヲ以テ成ル^ル彰ナリ○其他ノ片ヲ取テ水百倍
 ニ溶セバ十分一^ニ溶化ス己膜ヨリ成ル^ル明ナリ其水粘臍^シ
 三^ニ輕キ動臭アリ水面ニ沫様錫布質ノ膜浮ク○其粘
 氣膜質ヲ除テ硫酸ヲ滴シ加ヘ竟ニ^ニ沉降スル者無^ク至

レハ器底ニ白色ノ沉渣ヲ生ス細針狀ヲ尿酸ノ性アリ次ニ
 其上清ヲ煮テ上面膜ヲ生ズルニ至テ放冷スレバ具ヲ結ブ
 其具硫酸曹達ナリ^シ然レ^ハ雜ル^ル處ノ粘氣^ニ竟ニ脱セズ
 ○又前ノ多^クヤ^クイ^ハト^クカルキ^ヲ百^倍^ニ加里^海^ニ
 ニ投スルニ全ク溶解ノ輕キ動臭アル烟ヲ^ニ發セリ^ト於是其液
 ヲ瀝過ノ未^ニ解^ル云渣ヲ^ニ除テ^テ稀弱ノ^ニ塩酸ヲ^ニ加フ此ニ^ニ固テ
 沉降物ヲ生ス其物尿酸ヨリ成ル者ナリ○又イ^ハト^クカル
 キ^ニ一^片ヲ甚々弱キ加里海ニ投スルニ其形ハ依舊^ニ変セズ
 ト^モ甚々軟柔ト^シ為ル其^ニ上清ヲ瀝テ之ニ^ニ塩酸ヲ加ルニ
 亦能ク尿酸ヲ^ニ沉降セリ^ト

右ノ諸試ニ因テホウルコト「ハイグトカルキ」甚々膀胱石ニ似テ尿酸ヲ含クヲ知ル然レモ其尿酸ハ曹達ニ和メアリ尿中ニ在ル尿酸ト同カラス尿中ノ尿酸ハ尿中ノ尿酸ヲ含メリ「
允ツハイグトボイ」ニヲ生スル人ハ靱帯ノ間ニ所謂尿酸曹ノ達ヲ結貝スコレガ其部ノ神経ヲ害メ疼痛ヲ發ス○又ベルトルト云此カルキ尿酸ヲ含ム故ニ痛風患者ノ尿ニ其病ノ發作中ハ尿酸無シ

其ノ試ニ因テホウルコト「ハイグトカルキ」甚々膀胱石ニ似テ尿酸ヲ含クヲ知ル然レモ其尿酸ハ曹達ニ和メアリ尿中ニ在ル尿酸ト同カラス尿中ノ尿酸ハ尿中ノ尿酸ヲ含メリ「
允ツハイグトボイ」ニヲ生スル人ハ靱帯ノ間ニ所謂尿酸曹ノ達ヲ結貝スコレガ其部ノ神経ヲ害メ疼痛ヲ發ス○又ベルトルト云此カルキ尿酸ヲ含ム故ニ痛風患者ノ尿ニ其病ノ發作中ハ尿酸無シ

Handboek

der

Algemeene
Nieuwte Kruide?

naam de vande verbeterde uitgave

van

Dr. J. W. H. Comardi.

gebruik leeren

te gebruiken;

door

Dr. J. J. Gaasdyck,

prophitieren den geselther
to Amsterdam.

to Amsterdam by
J. de prester,
1828.

病ハ四種ノ *grand rosten* (Elementarfeuchtigkeit,
Leiden) ヨリ發所謂四種ノ元液ハ一日血二曰粘液
三曰黑膽汁四曰黄膽汁是ナリ此ノ多寡等ニ因テ
諸病ヲ發スコレ古説ナリ近時ノ舍麥加「*ルヒウス*」氏
等ノ説ニハ發酵及ヒ酸ト「*アルカリ*」ト和合スル沸燂ニ
因テ病ヲ發ス即チ酸或ハ「*アルカリ*」、酸系及ヒ其指揮
ニ因テ生ス又近時ノ *gastrochemie* 即チ *Quimie*
ノ如キハ曰ク病ハ酸素、温素、水素、窒素、燐ノ過、
不及ニ因テ生ス故ニ百病ヲ已別メ

geoxigende (oxygeneen)

getalmindeerde (calorimeter)

gehydropogenieerde (hydrogenen)

geartideerde (apotemen)

geethyphorieerde (thyphoremelen)

、五大類トス。○又此元素ノ過不及ヲ以テ再ヒ區別シテ

overgeethygenieerde (superhydrogenen)

overgetalmindeerde (supercalorimeter)

overcalorimieerde (supercalorimeter)

等ニカツ

overmaact van oversten (polychymia)

gebrek der oversten (oligochymia)

酸、アルカリ、ノ游准、缺分、缺換、土氣ノ過不及、等アリ

此ニ就テ其 plasticise kracht 或ハ増進シ [煖衝

血ノ如シ] 或ハ減退ス [腐敗様ノ血ノ如シ] 又其サリシ

ハシグ或ハ増シ [verdikking, spijgichtheid] 或ハ減ス

verduunning, tenuiktal.] 又其プリッケレニテカラスト

増シ [overvorte, overmonia] 或ハ減ス [arrilt

ellenen]

大氣ノ氣柱成長ノ人身ヲ壓ス地上ノ中等ノ高処即チ

距海面二百尺ノ処ニ在テ人身ノ面ヲ十五自十六尺立方

ト定テ気壓ノ重サ 36,000 pounds

気ノ成ル窒素^{瓦斯}七十九分 酸素瓦斯二十一分 炭酸瓦

斯^ス ^{0000 of dry mixture.} ○タルトニ、艾律薩、ヒユム

ホルト、テ。マルテ、達喜、カ左ニケス、ベルトルレフト、ス。ル

ラニサニ、スルタ、ベルゲル等 大気ヲ百方ノ試ルニ高山深

谷、四時ノ変ニ因テモ其成ル異同無クニ但シ艾律薩

ヒユムホルト曾テ把理斯ノ觀戲場中人ノ氣ヲ測ル

ニ酸素瓦斯僅ニ小許減少スルヲ見タリト云

大気ノ成ルヲカテ論スレバ其酸素瓦斯ハ「イルリタ」

ベレ部カヲ刺戟シ呼吸血運ヲ増進シ温氣ヲ添へ

顔ヲ紅ク目ヲ赤クシ金創唇反ヒ腫ルニ中ニ割瘡

シ「ゴルツ」ヲ生シ終ニ死ス ○酸素瓦斯肺、心ニ在リ

深紅色ト為シ肺ヲ激衝シ定ニ壞死ト为リ血ヲ深紅色

トニ運行ヲ疾速ニ筋モ赤色ト为テウエルキトイフニ

刺戟及ヒ含密刺戟ヲ受易カラシム ○常例野

僅過テ酸素瓦斯多キ氣ハ草木ノ生ニタル山地、ヤ、

高キ丘、流シ急ナル破川ノ邊、北風、北東風等ナリ

○窒素瓦斯ハ特ニ神経ニ劇ク刺戟シタ、一吐ニテハ呼

吸ニ利アラスコトニ在リ「イント」ト「底」ヲ為ス救ハサレバ

終ニ真ニ死スコトヲ酸素瓦斯多キ氣中ニ置バ蘇生ス

○炭酸瓦斯ハ呼吸ヲ困難ニトイセリシテ、ベスホルミニク
 ンテ、ヘルルテ、フルラムニシテ、或ハ即死ヲ致ス空室！
 瓦斯、水素瓦斯ノ中ニ在テ死スルヨリ三倍早ク死スト云フ
 ○死体ヲ剖視スルハ肺萎弱ニ處々嫩弱ニ○心ノ右室
 肺動脈、靜脈、頸脈（ハルスアードル）及ヒ腦ノ諸脈及
 ニ血實溢シ其血常ヨリモ黒色ナリコト炭酸瓦斯ノ
 自性ノ然ラシクハナリ○此ニ反メ肺靜脈、心ノ左室、
 及ヒ其大動脈ハ萎弱ニ血無クシコトニ因テ考シハ呼
 吸室塞テ死ヲ致スコト明ナリ
 ○水素瓦斯ヲ吸納シバ速ニマイトヘイト、ベナウトヘイ

飲 *beuhte*

トトイセリシテ、ベウステロニスヘイト、スライウテ皮膚層暗
 黒黄色、ニノ死ス○此ニ反メ、ヒュンズニ氏之ヲ百五十回
 ツケ〜（ニ）吸納セシニタ、（ニ）燒酒ヲ嚙シタルカ如シ
 ○炭性水素瓦斯ハ更ニ危害アリ二三回吸納スレバ死ス
 然レ氏此ニ大氣二十分和合スレバ疼痛ヲ歇メ肺ノ刺戟
 ヲ甘ク又スワクテ、トイセリシテ、寒冷、青唇、黒黄色、
 顔面ト為ル吸納スルコト久ケレバ動脈ノ血ヲ靜脈ノ血ニ
 変セシム又血ヲ溶解シカラムヘン、フマウテシケレドト
 及ヒ真死ヲ致ス
 大氣ヲ腐敗セシムルハ動体ノ腐物ニ如ク者ナシ即チ

動物腐敗スルハ誘模尼亞、炭酸瓦斯、水素瓦斯、
發ス此諸瓦斯或ハ硫ヲ含ムハ硫肝瓦斯ト為リ或ハ毒
ヲ含ムハ毒酸瓦斯ヲ為シ或ハ炭素ヲ含ムハ炭性水素
瓦斯ヲ為シテ發ス故ニ動物腐敗ノ氣ハ惡性熱ヲ萌
發ス東方ノ渚地ニ疫ノ流行多キハ赫爾格人獸屍ヲ海
岸ニ曝シ腐敗セシムルニ由ル又剖体家ノ觀室ニ在テ
重キ神經ノ諸症及ヒ腐敗諸病ヲ生ス

○ *milchsaure (acid lactica)* 肥肥久ヲ経テ流
動スル者ハタ、窒素瓦斯ヲ生ス新鮮ヲ固キ肥ハ
炭酸瓦斯、水素瓦斯ヲ含フ多シ近來詳ニ之ヲ解ハ

アムモニアクガス、硫性水素瓦斯、硫性水素酸瓦斯
[*hydrothion sulfuric*] ヲ以テ就ル ○此氣ハ鼻ヲ閉
塞シ眼目ヲ放毒シ或ハ盲ニ或ハ他ノ眼疾ヲ發ス

○ *malerial disease* 此モ一種ノ惡氣ナリ死水、プーレ
ン、ウーラセシ、スローテシ、朽木腐草、小虫、糞ヲヨリ發ス
此氣ハ水素ヲ以テ成リ或ハ水素、炭素ヲ以テ成ル或ハ窒素
或ハ硫肝氣ヲ含ムアリ ○凡ソ渚地ノ人ハ同敷熱、神經
熱、腐敗熱、プーリス熱、膽液熱、下痢其他ノ惡性諸病
ニ罹テ死ス

○其他大氣ノ汚穢ハ植物ニ由ル植物大場ノ光ニ中テハ酸

素瓦斯ヲ糞ニ夜回ハ呼吸ヲ窒塞スル *merbilitas*
De putredine ヲ糞ス特ニ小素瓦斯ヲ糞ス ○サ方中
ハ陰地空室ニ在テ人ヲヒテ *Seklemming*, *amatory*
Hygacid, *Frankhopping* 頭痛、昏冒、或ハ死ヲ
致ス

○山坑ヨリ所習 *Helix* ^{各名} *Weler*, ^{一各} *Weler* ^{德名} ナル者

糞ス一名「ベルグワーセム」坑戸地下ノ諸氣ヲ總名メ「空
トル」ト云フ之ヲ別テ「グド空トル」スレト空トルノ
二種トス其スレト空トルニ數種アリ(注)

(注) ヒムボルト云ク此諸氣皆火焰ヲ撲滅スト虫モ其

酸素ノ多サ或ハ常ノ濁氣ト同シ多サナリ然レハ大底ハ酸
素濁氣ヨリ多シ然レハ濁氣ニ比スレハ炭酸多シ ○或ハ

窒素 八十三分

酸素 十四分

炭酸 三分

或ハ 酸素 二十七分

窒素 六十分

炭酸 十三分

○其第一種 *matte Weler* 已最モ通常ノ空トルニ
特ニ炭酸ヲ糞ス他ノ地氣ヨリ重ク大ヲ減シ呼吸ヲ窒ス

月勿 瓦斯

其第一種 *Flammable* *nitrous* 此ハ燃ハ易ニ水素瓦斯
ヲ多ク含ム坑戸其大炎ニ罹ル^ル多ク或ハ此ニ中テ窒死ス
其第二種 坑戸之ヲ単ニ「スレト」左「トル」ト名ク此ハ
窒素瓦斯ヲ含テ非常ニ輕ニ、燈火ヲ吹滅ニ窒塞ス死
ス特ニ眼目ニ鑠透ス

此他「左」トル^ル類多ク或ハ炭酸瓦斯ヲ含^ル或ハ炭性水
素瓦斯ヲ含^ル或ハ硫性水素瓦斯、窒素瓦斯ノ多寡
比例一様ナラス

○植属ノ毒ハ華尔斯様ノ外ニ或ハ「ア」テリセ、或ハ苛烈
ノ揮發油、或ハ苛烈ノ元素、或ハ炭性水素或ハ窒素ア
ストフ

リ近時ニ至テ苛烈ノ *planten alkaloids*, *veratrin*
等ヲ發明ス

○近時ノ舎密加云ク毒中ノ毒ハ自^各ノ「アルカルオ」イ「テ」ニ酸
ヲ和合シテ成ル者ナリ其れヲ分テ *mercurium en*

me corium luir, *hypocyanine*, *delany*
me, *atropine*, *datarine*, *ant* トス
○麻酔毒アル者ハ *opium*, *hyoscyamus niger*,

scopolamin, *Colium tenuilentum*, *atropa*
belladonna, *patuna stramonium*, *visciti*
virida en, *corium maculatum*, *ascuitha*

馬錢子

青酸

weisse Nemica; prausische Bienen,
○麻酔、外ニ更ニ苛烈ノ性ヲ具ル毒アリニテラ Nemica
mistata, 一名ノ左ノ諸物此ニ属ス

Blöesling, werminkolop, Ringelwee,
witte micwachtel, tabak, en de vargijste
Kampfer rose lein of Indiammen, 即チ
Agave'sch muldarsin's (Wiegand'sche)
A Emetice's (Frankel'sche)
Terminodul (githreit'sche)
integer (Anker'sche)

— pine taric's (most Zulam)
— Viola'sch's (Violetta)
— ruber'sch's (Blodrusse)
— glutinosus (Dymne rige)
— factithuis's (mellge sende)
— pratensis (gabone Champignon)
— arvensis (gelsch witte Champignon)
— papillatut, amarul'sch's (papere sende)
○スワムノ美ニテハ

Sceletus elegant (Praeger's Zuban)

Viridius (Gelbe Zuban)

Phallus impudicus (Stink Schwart)

諸右類ハ神経ニ害スルモノナラズ腸中ニ定處ノ故衝ヲ

禁ス

○又苦味ノ素ヲ含之其苦味素中ニ一種ノアルカルオイデ

ヲ有ル此アルカルオイデヲ近來 *Strychnine* ト名シ

此ヲ含ム者ハ即チ

Strychnos nuxvomica (Frank noten) 馬錢子

Teinte in antipris toxi caris

(Kohm ipeal.)

Colubrina (Hungen hant.)

Raba St ignatii (ignatius horn)

Brucea antidysenterica (Bittere engul) アヒキユステテラ

Stena 連ニ 毒

此諸物ハ神経特ニ脊髓ヲ害スルニシテ之後死ヲ致ス

○凡ノ毒ヲカテ *Serppe*, *Herboracende* (*marco*,

tiobe), *sattig*, *Seberacende* (*deputible*) en

Kamen treckenbe vergif ten. トス

○ *marcatische vergif ten*. 毒

○ Potting venom Venome vergiften

(venena septata, mikrida.)

此諸毒ハ諸管、イルリタヒリテイト、ヲ速ニ消滅スルニナラズ血ヲ溶解シ及ヒ腐敗ス此類ニ特ニ動物ノ毒ヲ屬ス即チ蝮蛇、蛇類ノ毒ノ如ク近時諸貨ノ説ニ此ハ空素ニシテ水素加テ毒性ヲ逞フス其咬傷ノ部ハ劇痛ニ如衝シ腫脹シ其毒他處ニ蔓也ノ青黒ノ斑ヲ散シ寒壞直ト為リコルツヲ散ス其脈小、數、或回歇シ大渴引飲ノ熄マズ幸瘡シ昏冒シ冷汗出、或渾身黄莖マシ或ハ出血ノ死ス。

○ Lamenttrek Venome, the mace wine,

Verdikkenke, vopdringende vergiften.

(venena et viderantia.)

鉛及ヒ鉛ノ製削ヲ屬ス凡ソ鉛毒ハ女ニテ服スルモ漸々ニ積テ人ヲ害ス即チ磁藥ノ粗ナル鍋ヲ以テ煮タル飲食、鉛ヲ加ヘ偽リタル酒、坑戸、鉛專匠、画家、陶工、鑄造字匠、等此毒ニ嬰ルヲ多シ。○顏料ニ常ニ鉛粉ヲ用ヒ或ハ大創ニ鉛膏ヲ久用スバ口ニ邪惡ノ甘味ヲ覺ヘ帯青色ノ津唾出マラトトリキニク、食挽衰廢シ大便秘結ニ便色、或白ク或ハ黒シ或ハ搐掣、鉛毒病ノ諸症ヲ見ス穢維ハ

剛^{四支}ノ固^支石木硬或ハ喘急乾咳等ヲ兼又甚キ者ハ死ス

○傳染毒 *infectio, infectio, contagium,*

virus contagiosum, miasmata.

病ヲ動体ニ致ス処ノ毒ナリ既ニ一病毒ヲ蒙ク其同病ヲ又

他ニ傳染ス○ヒエラントニテ再別メ一ヲ *Verulne infectio*

stax (*Contagium Nihilum*) トニテ生人ヨリ殺メ生人ニ

傳与スルヲ謂フ一ヲ *Acute infectio* (*Contagium*

morbum) トニテ腐敗体、海水、汚泥或ハ一種大気

ノ腐壞〔近時ノ人所謂 *miasma*〕ヨリ殺メ生人ニ感ス

ル者ヲ謂フ所謂生活病毒ハ病歟病虫ヨリ傳染スル

者ニ之ニ属スト知ヘシ

病毒ハ水素ニ或ハ炭素加リ或ハ窒素加ル者ナリハ^三ンモ^二ン

スニ *gicht form* (*acid tartaric acid form*) ノ性能甚々

病毒ニ似タリ其樹炭性水毒瓦斯ヲ發メ人此ニ中レハ發メ

疹病ヲ患フ膏藥ノカブレヲ生スルモ特ニ水素ノ所為ニ属

○傳染諸病ノ患者ヨリ發スル渣物ハ即チ傳染毒ノ

導者タリ其性アルカリニシテ紅変セルラカクニス低ヲメ

速ニ青色ニ還スコレヲ温レバ傳染毒揮散シ去テマタ原ノ紅

色ニ還ルナリ○疫毒、^神黄熱、^症等ノ毒ハ瓦斯ノ

類ナリ炭性水素、硫性水素等ヲ含ム其臭氣ニテ知ヘシ

○小児、孕婦、及行經ノ婦人ハ發疹病多シ亦水素ノ多キニ因ル又人身ヨリ發スルノミナラス麻酔毒ノ植物毒獸動物ノ毒性、烈臭ノ排泄物ヨリモ水毒發ス

○傳染毒多ク揮發性ナリ之ヲ *Contagium volatile* (gas, miasmata) 此ハ大氣ニ和ノ氣ニ游泳ス或ハ固形ノ者アリ之ヲ *Contagium fixum* ト名ク目ニ視ベシ流体ヲ為ス徑ナニ之ニ觸レハ傳染ス

○病毒ニ種一齊ニ感受スルヲ稀ナリ既ニ一毒ニ感スレハ他毒ヲ拒ニテ受ケズ猶植物ノ花柱其同一種ノ花粉ヲ受テ妊ス他ノ花粉此ニ感ノ間種ヲ生ゼサルガ如シ○婦身ノ

胎常ニ男精ヲ受ル者ニアラズ婚嫁ノ十年或ハ十五年ニシテ始テ妊スル者或ハ終身不孕者アリ卵ノ男精ヲ受ル猶病毒母ノ傳染スルガ如ク然リ人傳染病者ノ傍ニ在テ其在ル毎ニ傳染スルニアラズ

老境ニ至テ始テ傳染スル者アリ或ハ終身病毒ニ感ゼサル者アリ

○各種ノ病毒其ノ性同カラス或ハ嫩衝ヲ生シ或ハ膿瘍ヲ發シ或ハ類ニ病毒ヲ分泌スル病按ニ赤痢ヲ生シ或ハ皮疹ヲ發ス然レ之ヲ要スルニ人身之ヲ受レハ之ヲ排泄セント欲メ熱、痛、其他神經ノ諸病ヲ發ス或ハ液ヲ害シ或ハ血ヲ溶解ス

○病ヲ起ス虫ト

蛔虫、ゴイセー子ウラム等ナリ、ゴイ子セウラム *guineet*,
Van huijndorm, (*gardius medicinalis*, *braai*,
vinculhis, *verre medicinalis*, *pilaria medicinalis*,
newtoni.) 形圓クタイ、ニエルコト長サ、太サ、弦ノ如ク色白
 淡白嘴胞脹ス *gardius*, *Leedaellem*, *Egypte*,
Madag - *on mediterr*, *guinea* 等ニ生ス「リエトルヒイ
 ノ後ニ蛔虫ノ類ニ属ス人身ノ蜂窠等ニ蝕入ス而シテ皮下ニ
 顯ル特ニ膝、腕等ニ於テス其部ニ腫ヲ發ス豌豆大
 焮衝アリ發熱アリ或ハ自然ニ潰乱シ或ハ頑膏ヲ貼

後其腫ヲ破リ虫頭ヲ捕テ箸竹筋ニ卷キ漸々次々ニ卷
 キ取ルベシ數日カ、リテ日々少シク卷キ取ルベシ若シ誤テ
 放シ或ハ断シテ一片皮下ニ殘シハ其腫劇痛ヲ發メ耐ヘ
 忍フベカラス加之其痕悪性ノ潰瘍、ヒストルス、或ハ寒瘰
 疽ヲ發ス」

water brandworm (*gardius aquaticus*) 此ハ魯
 西亜ノ南方、蕪湖ニ有リ此モ皮下ニ侵蝕シ焮衝ヲ發ス
 ○*myten* (*ataxi*.) 此ハ疥癬、悪性ノ瘡毒、ラセ
 リイ、ニ生ス此病ノ傳染スルハ此虫ニ因ルト云フ其説疑ヘシ
 何者ハ此虫ハ疥癬毎ニコレアルニアラス、乾疥ハ此虫無シ

夕、温疥ニミアリ温疥ト虽モ冬月ハ此無ク夕、温季ニ
 此ヲ生ス又疥癬ヲ發セサル平康ノ皮膚モ生ス又母体
 ヲリ疥癬ヲ發シク生タル嬰兒ニモ此虫アルアリ故ニ
 此虫ハ時有テ偶々人身ニ客在スル者ト觀テ可ナリ
 蠅及ヒ小虫ノ *malloids* モ潰瘍ニ於テ其諸症ヲ險惡
 ニ化膿ヲ妨ケ或ハ化膿ヲ催進ス
 蝎特ニ亞弗利加蝎、左スヘシ、蜂、蜘蛛、咬刺ハ其創口
 一種ノ酷厲液或ハ揮散ノ窒素ヲ殘ス此ニ因テ焮衝ニ
 動輒チ寒壞疽ヲ為ス此ニ因テ死ヲ致ス
Randoloo (pilet permefrand.) 至害ノ虫ナリ亞

墨利加、ビニ子ニステニ生ス人ノ足胛ヲ蝕シテ其卵ヲ爪下
 ニ遺ス其処ニ割キ焮衝ヲ發シ或ハ壞疽ヲ為シ或ハ時膿
 様ノ潰瘍ヲ為ス

Nogel spain of *South Spain* (*varanella asidula*,
ria) 亞墨利加地方ニ生ス其咬痕危馬ノ焮衝ヲ發ス
Spinne kaplanische krebst spain. (*phalangia*
im araneoides.) 魯西亞ノ南地ニ生ス此モ其咬傷ハ
 処焮衝ニ或ハ危險ノ症ヲ發ス

tarantula in apulie 是ハ *maayan* 秋刈時
 其咬傷ヲ被ルアリ其症身体疲勞ニ四支怠惰ニ昏

眩ス及ヒ胸同、險症ヲ發ス」古人云其症甚狂之舞踏ノ
止マズ之ヲ治スルニ一種ノ音樂ヲ以テスト殆ニ下偶言ニ屬ス

○衣服、浴湯、等ノ害

華氏ノ驗蓋「112.5。190。」ノ湯ニ浴スルハ「スラフヘイト、
スワクテ、固形ノ衰弱、血行ノ遲滯、發汗過度ヲ為ス」
華氏九十六度以上ノ熱湯ハ甚々觸覺ニ、血ノ張力ヲ進
メ血ノ運行ヲ進メ血容ヲ増シハ病毒多シ難ク防ゲ此ニ目テ
觸覺極甚キ人多血人ニ害アリ」

此ニ反メ華氏三十二度至五十度寒ニ浴ハ「カカケ、アン、

バウリ」
Dankje uitst opschrijvingen naar de lingen

en 2 hoofdgeneigde personen, Kramphien en
Steipen, ondersluiting der huidvoldwatering,
van gewisse bloedweelingen, enz. 二拾六

○毛鬚

千七百七十六年ベルトルト氏人髪二寸ヲ分雜メ曰ク
炭酸諸模尼亞一錢又十八分〔全量十三分ノ一許〕

水初ヨリアクモニアアリ燐毛復ヲ帯ル者二錢又三分錢ノ二〔六分全〕

油尋常ノ動物油ト甚々區別アリ四錢〔四分ノ一〕

炭磁石ヲ以テ引クヘキ者四錢五分○此炭決メ燒化スルノ能ハズ

○水及ヒアウモニアクノ散失一錢又四分錢ノ一

○瓦斯二錢又十八分〔炭酸瓦斯、炭性水素瓦斯、和劑ナルヘシ〕

○ホウルコロイ、乃ニ左リシ馬毛及ヒ分ヲ分雜スル其成分示

此ト云フ

De nutritione animalis (physico logica) in de leen van de Velen.

○飲食消化

機性体内タ、動物之飲食消化ノ機^器械アリ人ヨリ彼礼布ニ至ルマテ然リ故ニ此器械ノ有無ヲ以テ動植ノ分トス
○腸ノ長サハ大抵身ニ五六倍ス人畜ニ於テハ口肛ノ二孔アリ一ニノ動物植衷ニ於テハ一孔アリ口肛ヲ用テ兼ヌ
○草食ノ動物ハ腸甚々長シ胃甚々窪大或ハ數アリ肉食ノ者ハ腸短ク狭シ動物ハ少許ヲ以テ大ニ養國ニ

消化容易ナリタク腸内ニ蓄ル膏敗ス故ニ早ク排せ人ハ

肉食トモ草食トモ名ケ難シ
草食肉食ノ間ニ在リ其長サモ其中間ニ在リ故ニ *allia*

actum *divis* (*polyphaga*) ト名ク ○茶劑ト毒トハ著

キ區別無シ良種多効ク羊ハ皆毒ナリタルタリスエメチキニス^ル積身林頃、阿美美^スノ如シ

普天下ノ人類ノ食物同カラズ温地人ハ植食ヲ好ミ用テ

印度ノ邊境門、カヤリヤ島人、スラミリア人ハ殆ト^ト蔬菜

種子^ノ菓^ノ食ス ○渴ノ害飢ヨリ甚シ血液稠厚トナリ益氣

増シ自ラ脈ヲ刺戟シ割執ヲ起シ咽喉乾燥シ咽喉

ニ攸衝ヲ生シ或ハ瘰癧ヲ為ス恐水病ニ於テ毎ニコレアリ

動物全書

齒牙] 骨ト異ナルハ(一)知覺アリ(二)神經アリ(三)諸管弥蔓ス(四)玻璃質ヲ被テ大氣ニ觸レテ変セス

○腹水二十五彬篤ノ水ヲ蓄ルアリ

○胃ノ温度ハ華氏九十六度レ ○スハラニサニ胃ノ入

ヲ以テ飲食消化ヲ扶クルヲ論百ク胃液能ク飲食ヲ

消化スト虫モ 列氏七度ヨリ冷^サ温度^ナナ^ハ自温^ノ

飲食ヲ消磨浸爛スル効力常水ヨリ強カラス十度

ヨリ自四十度ナレバ消食ノ効力甚々強シ故ニ冷血ノ

動物ハ温血ノ動物ニ比スバ消化ノ機緩慢ナリ

○古人消食ノ機力ヲ腐敗ナリトス大ニ非ナリ腐敗ハ

必ス諸模尼亞ヲ生ス未タ消食ノ中諸模尼亞ノ生ナリ

見ズ胃液ハ却テ防腐ノ性アリ蛇ハ其ノ良道ノ口易ク自

己ノ用クヨリ丸丸動物ヲ吞ミ數日ヲ任テ全ク消化スル者

ナリ曾テ蛇ノ吞ミタル動物ヲ見ルニ胃中ニ在ル処ハ消化ノ

腐ラス胃中ニ在ル処ハ己ニ腐敗スルヲ見ル

○鳥類ノ胃ハ筋様ナリ○穀食ノ鳥類ハ二胃アリ一ヲ前胃

又嗉^{ヤホツト}ト名ク薄ク多膜ノ如シ其内ニ多液^ニ含ム^ルガ

ヲ其内ニ浸漬ス而後真胃^ルニ致ス真胃ハ筋様

ニ消磨ノ機械ヲ備フヨク玻璃球^ニ碎キ石英ヲ

碎キ銅鉄ノ空管ヲ壓扁メ利針ノ夫頭ヲ錐破ス

其裏膜ハ厚ク軟骨ノ如ク石破粒ヲ被フ駝鳥ノ胃ハ小石鉄片アリ○蝦ノ胃ハ造作他ニ異ナリ物ヲ消磨スルニ便ラス故ニ別ニ一個ノ消食器アリ○胃ニ歳ニ兩度半円形ノ石ヲ生ス蜆垢石ト名ク炭酸加ホ基及ヒ少許ノ膠ヲ以テ成ル皮ヲ脱スル後此石化メ皮殼ヲ為ス○スハラニサニ動物ノ胃ノ周圍ニ在ル筋力ヲ三洞ニ分ツ全ク膜持ヲ甚タ薄キ筋膜ヲ具ル者多シ此洞ニ属スル者ハ人畜獸、鵜、鳥、コウイ、ビデ、イル、魚類ナリ筋膜イカニ薄シト虫モピトカイルニ氏ノ測算ニ云

De kracht op 12, 951 pond en begint bij

Deet die van 's middelnick en dan de buiksystem welke op de maag openen en haer bij de buikopening de bevestiging der ademhaling tusschen buikken tot 248, 385 ponden tusschen.

○再交獸ハ胃四ヶノ四胃カ如シ其三胃ハ道ニ連續ス胃(Stomach)ハ其第一胃及ヒ最洞キ胃ナリ植体此未テ浸漬シ酸酵ヲ初ム其ニヲ消化(Secret)此ヤ、小ナリ但シ筋線多ク粘蔓ス食物ヲ磨碎シ而後粘液ヲ以テ包攝シテ球團形トシ而後逆行ノ蠕動機ヲ以テ食道ヨリ口ニ致ス口中ニテ黏之ヲ嚥下スレバ第一胃

アークヘニス「左ウイルト」ト名ル者ニ入ル此胃ハ膜片多ク其裏
面ヲ被フ其後「アケル」ヘニス「カイルト」ト名ル胃ニ入ルコレ
真胃ナリ但シ特見嚙乳ノ向ハ路スル一管ニ薄ハ既ニ半
動性ヲ享ス液ナカ故ニ「ヘニス」行カズ「ミツツ」ニ行
カズ徑チニ第三胃ニ下ルナリ ○人モ或ハ路スル一アリ食
物一タヒ胃ニ下リ再ヒ吐テ津唾ヲ以テ嚙下スルナリ

○按ニ齧音瘰吐而噉也、食之已久復出嚼之牛羊
摩麻皆然但其名異耳牛曰齧羊曰齧世音麋
鹿曰齧益音 ○吞芻而反出嚼之也

(叔云齧獸) 牛 *bovis. bukkala.* 鹿 *zen bukkas.*

Chambus gallicus, anti-lappon. 野羊

Chambus guineensis, vactus. 駱駝 雙峯

駝等ナリ ○ *bovis* 第一胃 *haecle* 第二胃 *menigale*

第三胃 *collo* 第四胃

胃液ノ溶解力ハ胃ノ裏面ノ筋力ト反對ス即チ胃薄
ク多膜ノ如キ動物ハ其胃液ノ溶解力強ク植虫ノ如
キハ胃ノ筋力無ク冬胃液ニテ以テ食物ヲ消化ス夏
時气温煖トバ消化速ナリ「テレメ」イ曰ク波礼布夏
ハ食物六時ヲ消化シ冬月ハ三日ニシテ消化ス○セリス
ルシ、セーブラーセシハ食ニ各貝殼ヲモ胃液ニテ溶解ス

na by een paar de volgende kennis der
eene zijde ten uitgebreidheid van twee of drie
duimen te hebben begaannemen, maakt men
aan de tegenzijde slechts eene ~~een~~ ^{een} ~~zijde~~
aankleefing, daarna aanbindt men 4 korben,
die uitende der laatste met een dun linnen
plaatje; men brengt dit plaatje, door middel
van een' metalen draad, met een poot van eene
galvanische zuil in aanraking, daarna verlost
men sirkel, een ander plaatje, dat met

De andere poot door een' geleiden draad in
gemeenschap staat, onder de naam, in den buik
van 2 liek brengeude. by deze praec moet men
de leidschaps zijde openen, om de stikking naar
te komen, die anders 2 liek, door de andere,
"breuking der adembaling, plotseling in 2 liek
"sterven. men ziet aldaar, dat de in de
naam van 2 paarsd gesnagte harer tot een
bymigen kweek, eene wylentlike vlym, overgaat,
terwijl de haren onderaards slijkt by 2 liek,

van de melk men, of wel de beide menglenly.
"altaken met verliest van helst landijheid heeft
Aerdmellen, of wel, waar van men liis verget,
megeel heeft met de enkele klieping ~~van de~~
Lemmen, van welken men de opgeven den
viteindem, om hunne onderling aanrakling te
beletten, heeft ongeschied, want deze doorkly
ping alleen kan de chym vermeerde werk
ing niet te eenemale beletten.

○食物胃中ニ在ル其食物ノ性質ニ随テ永短アリ
消化ノ遲速

ノ試験説言ク動物植物纖維者蛋清不者、臍部
發酵ニ難キ物、ハ長ク胃中ニ在リ胃液ノ溶化力ト抗抵ス
ク久キ故ナリ、數時ニ僅ニ溶解ス動植物膠様部、胃中ニ在ル發酵ニ解等、僅ニ半時
ニシテ全ク溶解ス

○黑膽液

脾ノ織管ニ流入スル血、油乳増益其血久ク脾中ニ
留滞スル一種ノ流動物ヲ為スコシ古人ノ所謂黑膽
液〔アトラビン〕是ナリ

○尿

少兒ハ大人ニ比スルハ通尿數ヲ較ナリ腸ノ膵膵腺盛

十六ナリ年加ルニ隨テ大便硬シ腸ノ筋覺機漸ク少ク引
カモ減スルニ目ル和スル量モ減ス。○婦人ハ男子ヨリ尿數少ク
量少シ経血アルニ目ル

〔尿〕^{半時同}血循環ニテ腎ノ管ヲ通行スルノ其量計ルニ一升

尿、血中ヨリ^{其十分一}泌スル^{トス}六半時間ニ分難ク

血尿ハ一百^{即チ六北又四分北}ナリ飲料イカニ利尿ノ

効多ク身体个カニ無ニ病ナリト魚モ如此ニ大量ヲ通利セス

若シ如此ナルハ尿管ト各ケ病ニ属ス

○鳥類ハ皆膀胱無シ其輸尿管ノ口、^コイエルカナルヲ

ロア左ニ開ク^コロア左ハ腹様囊ニ直腸、膀胱、子宮、

coloaque.

三用ヲ兼及尿ヲ蓄(尿ヲ利シ卵ヲ産ス鳥^{故ニ}ハ尿尿

一齊ニ通シ尿ハ尿ヲ軟解スルヲ司ル尿ニ加ル基土アリシ

卵殼ヲ造ル有余ナリ

○膀胱ノ病ハ和蘭、諸厄利亞、佛蘭西ニ多シ和蘭、諸厄

利亞ノ如キハ地氣冷シ水湿多キニ目ル。○尿管崩ハ腎ノ織

質ノ大ニ衰弱スルナリ和蘭、諸厄利亞、スニヨツトラド

ノ如キ冷湿ノ因ニ在リ獨乙、佛蘭西ノ如キ温^{多ク}ナリ

ル^{稀ナリ}煖地ニ絶テ無シ

吸収機

表被ハ過度ノ吸収機ヲ拒テ中等ナラシム表被薄クシ

常ニ湿润スル部ハ他ノ部ヨリ吸収力敏シ唇、口内、亀
頭等ノ如シ梅毒等ヲ受ケ易キ所以ナリ表被厚キ処
ト蚤モ表被剥ケタル中ハ吸収甚タ盛ニナリ産科
指ニ小創小剥脱スルヲ強テ梅毒スル婦人ヲ手行
六指ノ創処ニ毒ヲ受テ容易ニ治シ難キナリ牛
漿ヲ種痘スルニモ其漿ヲ表被下ニ刺シ入ルハ此カ
ルナリ

○レイムバ

血脉ニ落ル前ニ乳糜ニ和スマスカクニ取テ蓄ニ入レタルニ六或ハ
十家程多ク凝固シカレテニ部ト為ル一部ハ饒多ク且
烈具ヲ費ス

泡乙ノ如ク其内ニ纖維様ノ溶液島状ヲ為ス液上ニ泳ム

○ハウソン云ク泡乙ハレイムバノ多クヲ為ス纖維ハ甚タ少ク

○ハルレル云クレイムバハ甚タ血ノ泡乙ニ似タリ喙尿管ヲ通行ス

質膠粘、鹹味アリノ熱氣、アルコキル、酸精ヲ以テ凝固ス

要スルニ^{動脈ノ細絡ヲ以テ}血清質諸液ノ如シ○血泡乙ハ諸内面ニ在リ

コレ諸藏ノ纖維質中ニ必シコレヲ再ヒ血脉ニ回テ吸収ス

血泡乙ハ乃レイムバノ根源ナリ○腎臓、腎脈ノ内腫

ヨリ水液多ク出ルアリコレレイムバナリ

○誌動ノ途マルセツト曰ク植物ヲ食テ生スル乳糜ト動物ヲ
食テ生スル乳糜ト甚タ區別アリ植物ヨリ生スル者ハ動物

ヨリ生る者ニ比スル炭素ヲ含ク三倍數月貯テ腐ラス
甚々透明ナリ動物ヨリ生スル者ハ腐敗ニ易ク尚乳
汁ノ如クシ蛋清、乳ノロム、ヲ含ミヨル飼スル炭酸アム
モニアヲ生ス

○血ハロイムパト乳糜ノ变化セル者ナリ

○心ノ鼓動ノ力、ケイル云ク數ヲ^二歎ス^一ボレルリ云ク二
萬四千此ニ歎スト云不同ノ説如此タハ「ハルレル」ノ説ニ從フ
ベシ「ハルレル」云心ノ力ハ幾何學ヲ以テ測ルベキ者ニアラス
テ生ラザラ測テ其心室ニ指ヲ挿テ以テ知ベキ也

○脉動 子ルステレヘニスヤレニニ於テハ一容極後ニ百

四十動、之ヨリ後血運減ノ僅ニ百動トナリ ○婚嫁ノ年ニ

至テ大抵八十動 ○マニ子レイキオウトルトムニ至テ八十五

動、○ゲレス^{六十歳}アールドニ至テハ五十或ハ六十動勇テ八十七歳

ノ老翁ヲ見ル其脉僅ニ十九動ナリシ ○凡ソ寒ク人ハ脉

邊ク暖ク人ハ動多シ

血大動脈ニ運行スル一^{セキト}秒時ニ八寸ヨリ多シ ○身体中靜

脈ノ血ヲ容ルルハ動脈ノ血ヲ容ルルハヨリ潤大ナリ又

ルニ血ニ十八此或ハ三十此アリ^而其半^ニ全身ノ全量五分ノ一ヲ

為ス而其九分ハ靜脈ニアリ其四分ハ動脈ニ在リ ○凡ソ肺

靜脈及ヒ心ノ左室ニ在ル血ヲ動脈ノ血ト見ルベシ心ノ右室

及ヒ肺動脈ニ在ル血ヲ静脈ノ血ト見ベシ

呼吸

呼吸ノ氣列氏ノ三十度華氏ノ九十度ヨリ高カラス

身体ノ自温老人ト雖モ内部ノ温度ハ十度ト同シ

部ノ温サ老減スルナリ故ニ老人ノ尿及ヒ血ハ十度ノ尿及ヒ血

如ク三十度ナリ但シ^{華氏}氣ノ如キハ十度ノ温、温ナル皮ヨリ

出スルト老人ノ冷、乾ナル皮ヨリ出スルト温度大ニ差別

アリ世ニ古聖カ^{ヒット}美少女ヲ集テ老冷ノ手足ヲ

温ル因ヲ畫クガ如シ

腹ヲ丸ルモ^{ヒット}球ヲ直テニ羊ノ腹中ニ置テ三口必ヒ

達時得

煥

ヒニテニ百ク

膀胱ニ置テヨリ温ナルニ度ノ焔衝ノ部ハ患者モ医者

モ著ク熱ヲ見レ凡^{ヒット}丸モ^{ヒット}ラ^{ヒット}度接シ試ルニ僅ニ少ク高

度ニ昇ル

サニクトリウス^{ヒット}ハ千七百年ノ初ノ人ナリ蓋シ^{ヒット}及^{ヒット}氣ヲ實驗スル

ナ^{ヒット}九三十年曰ク凝流ノ食物ハ比ヲ用ヒ八十二時間ニ五比ハ

蓋^{ヒット}散^{ヒット}氣ヲ為シ^{ヒット}三^{ヒット}北^{ヒット}体中ニ止テ二便ハ通泄物ヲカスト云

トタルト^{ヒット}氏ノ等ハ尙其^{ヒット}之^{ヒット}食物蓋^{ヒット}氣ト有形^{ヒット}通泄物

ナ^{ヒット}九^{ヒット}七^{ヒット}ト^{ヒット}一^{ヒット}トノ如シト云^{ヒット}〇ス^{ヒット}ヘ^{ヒット}テ^{ヒット}蓋^{ヒット}氣ハ四時、老女、男女、

平ニ病^{ヒット}等^{ヒット}ニ^{ヒット}區^{ヒット}テ^{ヒット}一^{ヒット}ナ^{ヒット}ラ^{ヒット}不^{ヒット}夏^{ヒット}ハ蓋^{ヒット}多^{ヒット}多^{ヒット}多^{ヒット}尿^{ヒット}少^{ヒット}多^{ヒット}冬^{ヒット}ハ蓋^{ヒット}少^{ヒット}

少^{ヒット}尿^{ヒット}多^{ヒット}シ^{ヒット}〇蓋^{ヒット}多^{ヒット}モ他^{ヒット}ノ排^{ヒット}泄^{ヒット}物^{ヒット}ノ如^{ヒット}ク^{ヒット}睡^{ヒット}中^{ヒット}ハ^{ヒット}少^{ヒット}ク^{ヒット}見^{ヒット}中^{ヒット}

用勿

多ク

○蛙蛇等ハ肺ノ呼吸ヨリモ皮膚層ノ蒸氣ヲ肝要トス「エドワ
ル」ト千八百二十四年ノ書ニ曰蛙ヲ埋^ニ入レロマテ水ヲ盛リ
少ク通氣ノ処アラシメ毎々水ヲ替ヘ奏ハ三月余恙ナシ
其蛙ヲ^{上法ノ如ク}油ニ炙クハ僅ニ一日生活ス

○蒸^ニ者氣ノ主用ハ身体ヲ清涼ニスル在リ全身ノ面ニ散
スル水氣蒸散スルニ乘^レ温素著クモ散^ル尚タルモ
トトルノ球ニアルコキ^ニラ塗シハ冷ルガ如シ
○血ノ三部ノ多^ク少^ク血^ノ濁^ルハ全血ノ半^ニ賣^ル四^分ノ三^ニ居^ル
色^ノ分^ト織^維分^ハ少^シ

脂肪

眼窩ノ底ニ在^ル者ハ軟^ニシ^テ殆^ト流動ス腎及ヒ大腸^ノ節^ノ
脂^ハヤ、硬^シ○成長^ノ中^等肥^瘦ノ者ハ脂肪^ノ全身^ニ重^サ
ノ二十^分ノ一^ニ居^ル少^兒婦^人ハ大人^ノ比^例ヨリ脂^多シ

